

平成24年12月21日開催

石狩市教育委員会会議（12月定例会）資料

<議案>

- 1 平成24年度石狩市教育委員会表彰受賞者の決定について（非公開）

<協議事項>

- 1 平成24年度全国学力・学習状況調査結果について（別冊）

<報告事項>

- 1 平成24年度石狩市教職員研修「ウィンターセミナー」について・・・P1
- 2 厚田区の学校のあり方について・・・・・・・・・・・・・・・・P2
- 3 教職員給与費の適正執行等に関する調査の結果について・・・P3～P5
- 4 星置養護学校の高等部移設等について・・・・・・・・・・・・P6

石 狩 市 教 育 委 員 会

平成24年度 全国学力・学習状況調査結果

～石狩市における調査結果の概要～

石狩市教育委員会

この調査結果は、国及び北海道が公表した「平成24年度全国学力・学習状況調査～調査結果のポイント」で示された調査結果に基づき、本市の小中学校の状況についての概要を掲載したものです。

1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全道的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年及び中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒及び学校に対する調査）

4. 調査の方式

平成19年度～21年度は全国すべての小中学校を対象として、平成22年度は、抽出（全国で約30%）及び希望利用調査として実施されました。平成23年度は「東日本大震災」の影響で全国一斉での実施は見送られ、各都道府県独自の対応となったことから、北海道では、札幌市を除く全ての市町村の希望参加により「全国学力・学習状況調査問題を活用した学力等調査」が実施されました。

本年度は、平成22年度同様、抽出調査（全国約30%）及び希望利用調査での実施となりました。以下において、「全国」と記載したデータは抽出調査結果であり、「全道」「石狩市」と記載したデータについては、抽出結果と希望利用（札幌市以外の全市町村）調査結果を合算したデータです。尚、本年度は「全道」のデータに、札幌市の抽出調査結果が含まれています。

※問題の詳細については、「国立教育政策研究所」のホームページを参照してください。
「国立教育政策研究所」(<http://www.nier.go.jp/12chousakekkahoukoku/index.htm>)

5. 調査実施日

平成24年 4月17日（火）

6. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校 13校（市内全校） 582名 中学校 8校（市内全校） 556名

結果の概要

本市の子ども達の学力は、依然として全国平均を下回っている厳しい状況にあります。

各教科の平均正答率で見ますと、小中全教科において、全国を上回る教科はなく、なかでも全国との差が最も大きい教科は、小学校国語Bで、-8.1ポイントとなっております。

また、正答数の状況で見ますと、全国の下位25%と同じ正答数の範囲に属する児童生徒の割合は、小学校で3.9ポイント~14.2ポイント、中学校で3.3ポイント~9.7ポイントと、全教科で全国よりも多い状況にあります。

一方、学校ごとにみますと、各教科の平均正答率で、全国平均を上回る学校も複数校あります。

全国学力・学習状況調査の正答率が低いということは、「習得することが望ましいと国が判断した個別の学習内容」が、身につけていない状態にあることを示しております。

このような中、繰り返し出題される問題は、全国的な課題となっているものであり、身につけるべきと判断された内容として、指導にも一層の留意が求められておりますが、過去の調査問題との比較で見ますと、国語では、小中合計の類似問題17問中、中学校で7問中3問が全国を上回り、小学校では10問中2問、中学校では7問中2問で全国との差が縮小しております。

算数・数学では、小中合計の類似問題32問中、中学校で20問中1問が全国を上回り、小学校では12問中7問、中学校では20問中8問で全国との差が縮小しております。差が縮まっていない、あるいは拡大している問題への取り組みが課題となっております。

本調査は、「学力」だけではなく、家庭での生活習慣や学習習慣を含めた「学習の状況」も調査分析の対象としています。

児童生徒質問紙からは、1日あたり30分以上読書をしている小学生は36.6%、中学生は32.2%であり、全国と比較して小学校で1.8ポイント、中学校で4.1ポイント高く、良い傾向にあります。

一方、普段（月~金）4時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、テレビゲームをしたりする小中学生の割合が依然として全国より高く、家庭学習とのバランスにおいて大きな課題となっております。

また、自分には、良いところがあると思っている小学生は76.7%、中学生は60.5%であり、全国と比較して小学生で0.1ポイント、中学生で7.7ポイント低いことから、自信を持たせていく指導が必要であると考えております。

学校質問紙からは、放課後や長期休業中を活用した補充的学習における積極的な取り組みや、授業改善・指導形態の工夫など、努力されている傾向はうかがえますが、取り組み全体の成果と課題を総合的に把握し、対策を明確にしていくことが大切であると考えております。

子ども達の学力向上のためには、学校・家庭・地域が一体となって、危機意識を共有し、連携協働して改善に取り組むことが不可欠であることから、今後とも市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

平成24年度 全国学力学習状況調査の結果分析

【小学校国語】

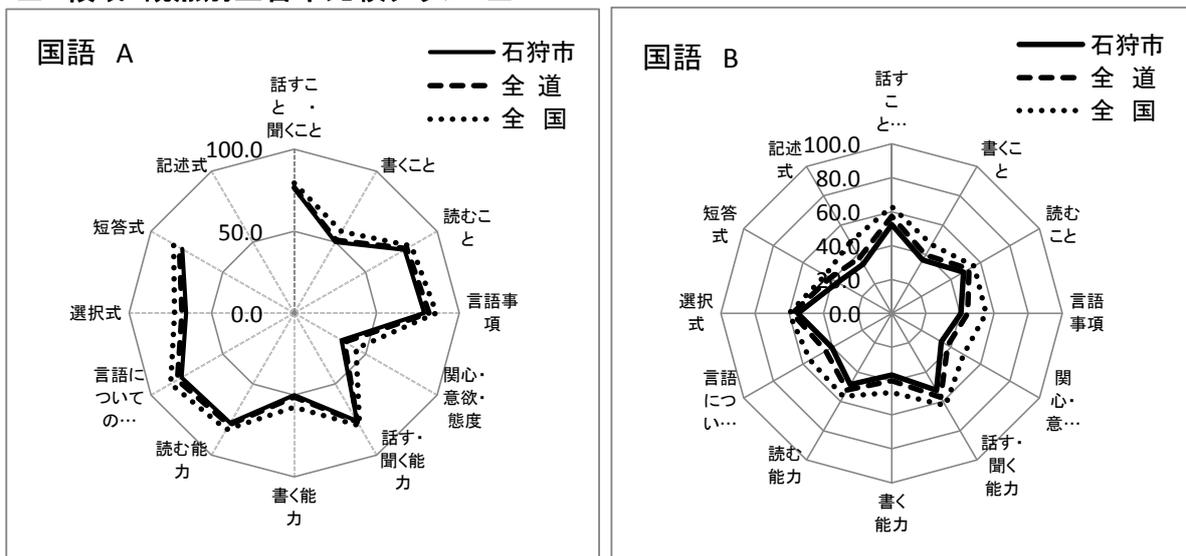
□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)抽出	13.9問/17問	81.6%	6.1問/11問	55.6%
全道(公立)	13.2問/17問	77.8%	5.6問/11問	51.1%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	
	石狩市 : ○ 全国 : ☆			☆			○						☆						○

相当高い	… 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位)	… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い	… 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い	… -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い	… 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い	… -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位)	… 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い	… -7ポイント以下の範囲
同様	… ±1ポイント未満の範囲内		

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 目的に応じ、収集した情報を関係付けながら話し合うことについては、定着が見られません。
- 百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を捉えことには、定着が見られます。
- 漢字の筆順については理解の定着は見られますが、一部の漢字の書きなどの言語事項について課題が見られます。
- 学習状況調査での解答時間が「余った」「ちょうどよかった」等の肯定的な回答率は全道と同様でしたが、無解答率は全道よりもやや高い傾向にあります。

国語 A（主として「知識」に関する問題）

以下に示す内容で、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを診る問題で構成されています。

- ・話の内容を聞きながら書いた質問について、その狙いを捉える。
 - ・新聞の報道記事のリードを作るために必要な事柄を整理し、一文にまとめて書く。
 - ・百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を取り出して書く。
 - ・日常生活で使われている慣用句を集め、それらの意味を捉える。
- 設問数は、17問です。

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道と比べ、同様（上位）の傾向を示しています。

国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	3 ア 情報の関係付け	整理した図の中から適切な内容を取り出して書く	92.4%	91.0%

- ・「書くこと」の領域は、全道と比べ、ほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	7 必要となる事柄を整理して簡潔に書く	新聞の報道記事のリードに必要な事項を整理し、一文にまとめて書く	33.2%	35.2%

- ・「読むこと」の領域は、全道と比べ、ほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	5 ア 目的に応じて、中心となる内容を捉える	百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を取り出して書く	88.1%	89.1%

- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道と比べ、ほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率
※相当低い例	1 ニ 漢字を書く	(1) 病院でいしゃにみてもらう	59.4%	66.9%
		(2) 東京からたいようがのぼる	75.2%	78.7%
		(3) 白いぬのを青くそめる	74.2%	85.5%
※同様（下位）の例	8 慣用句の理解	日常生活で使われている慣用句集め、それらの意味を適切に捉える	76.2%	76.5%
※同様（上位）の例	9 一 筆順を正しく漢字を書く	学年別漢字配当表に示されている漢字の正しい筆順を適切に捉える	80.9%	79.3%

〈指導の改善にあたって〉

- ・目的や意図に応じ、資料を読み取ったり、狙いを明確にしながら、適切に質問をする指導を充実させる必要があります。
- ・目的や意図に応じて、必要となる事柄を整理して簡潔に書く指導が求められます。そのために、意味内容が簡潔明瞭に伝わるよう、一文を比較的短く書く指導を強化する必要があります。
- ・漢字を正確に書く力をさらに定着させるために、児童の意欲を保ちながら、繰り返し定着状況を確認する機会を設けるなどの工夫が必要です。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを診る問題で構成されています。

- ・手紙の構成に基づいて事柄を整理し、適切に敬語を使いながら依頼の手紙を書く。
 - ・収集した情報を整理したり、資料を読み取ったりしながら計画的に話し合う。
 - ・雑誌の特徴を押さえながら読み、複数の記事を結び付けたり、編集者の意図を推論したりしながら、自分の考えをまとめる。
- 問題数は11問です。

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道に比べ、やや低い傾向を示しており課題があります。

国語B		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	2 一 情報の整理	参加者から出された質問の内容を適切に捉え、まとまりごとに整理する	78.6%	82.1%

- ・「書くこと」の領域は、全道に比べ、やや低い傾向を示しており課題があります。

国語B		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	3 四 複数の記事を読み、事実を基にして自分の考えをもつ	二つの記事に書かれている内容を結び付けながら読み、理由となる事実を基にして自分の考えを記述する	25.0%	28.1%

- ・「読むこと」の領域は、全道に比べ、やや低い傾向を示しており課題があります。

国語B		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	3 二 編集者の意図を捉える	編集者の意図を説明したものとして適切なものを選択する	46.4%	50.0%

- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、やや低い傾向を示しており課題があります。

国語B		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	1 二 敬語を使い、内容の中心を明確にして書く	目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、返事の仕方と内容を記述する	40.5%	44.6%

〈指導の改善にあたって〉

- ・全道と比べ、「同様」から「やや低い」となり、差が拡大したことから、課題の明確化と、より対応の具体化を図るため、今後、次の点について指導に努める必要があります。
- ・目的や意図に応じ、資料を的確に読み取ったり、狙いを明確にしなが、適切に質問する指導の充実が求められています。そのために、資料を分析し考察する力を定着させる必要があります。
- ・依頼文や案内状などの実用的な文章の作成や、それに対する返事の仕方について、適切な敬語の使用が求められます。そのために、表書きや後付けなどの基本的な形式を理解させ活用させる指導の充実が必要です。
- ・目的や意図に応じ、複数の情報を結びつけたり、編集者の意図を推論しながら自分の考えをまとめる指導の強化を図る必要があります。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、昨年度より向上していますが、全道の62.9%に対して石狩市は59.1%で、3.8%低い結果となっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、昨年度より向上していますが、全道の92.9%に対して石狩市は91.1%で、1.8%低くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答も、昨年度より向上していますが、全道の83.0%に対して石狩市は80.0%と3.0%低くなっています。

平成24年度 全国学力学習状況調査の結果分析

【小学校算数】

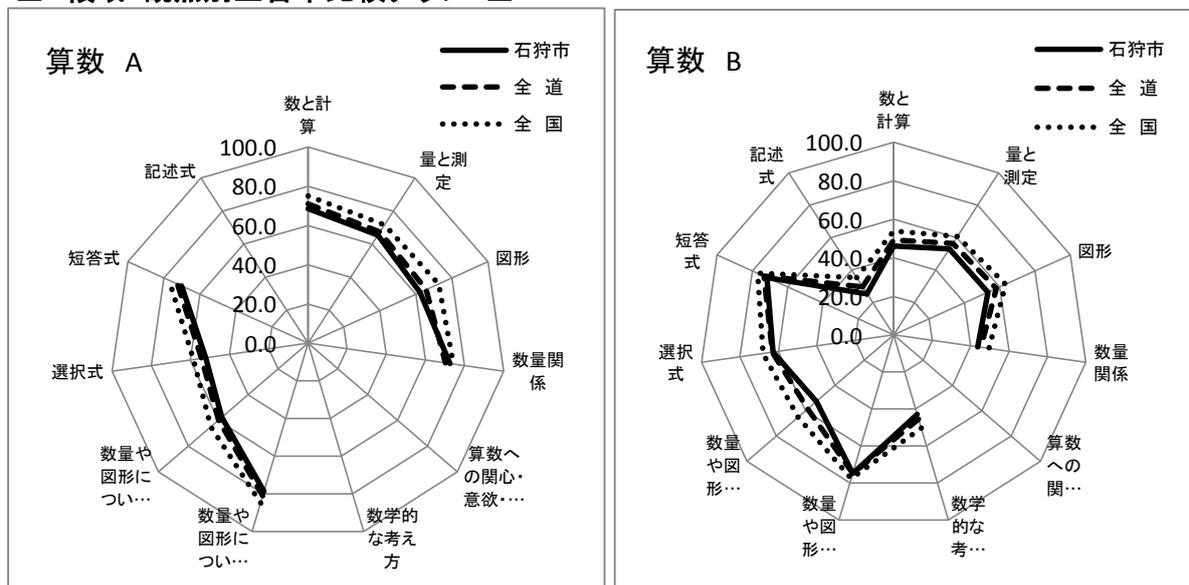
□ 正答率の状況 □

	算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)抽出	13.9問/19問	73.3%	7.7問/13問	58.9%
全道(公立)	13.1問/19問	68.7%	7.1問/13問	54.3%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 : ○ 全国 : ☆			☆			○						☆			○		

相当高い	… 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位)	… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い	… 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い	… -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い	… 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い	… -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位)	… 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い	… -7ポイント以下の範囲
同様	… ±1ポイント未満の範囲内		

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 算数科の概要 □

- 日常の事象を数理的に捉えたり、比例の関係の理解については、定着が見られます。
- 市内各校の正答率の向上は見られるものの、全道との比較で、全道を上回るまでには至っていません。
- 小数の減法、分数の除法計算、示された情報を基に筋道を立てて考え、図形の面積の関係を判断することに課題があります。
- 解答時間が「あまった」や「ちょうどよかった」という肯定的な回答は、A問題もB問題も全道よりやや高くなっています。また、A・Bとも無解答率は、全道とほぼ同様です。

算数 A (主として「知識」に関する問題)

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを診る問題で構成されています。

- ・整数、小数、分数の四則計算をする。
 - ・示された図の面積は約何 cm^2 になるか選ぶ。
 - ・基本的な平面図形の性質に基づいて角を求める。
 - ・比較量と割合から基準量を求める。
- 問題数は19問です。

- ・「数と計算」の領域は、全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しております。

(例)		算数A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
※ やや低い例	1 (7)	分数の除法計算	4/5÷8を計算する	62.5%	69.9%
※ 同様(上位)の例	3 (2)	除法の理解	120cmの赤いテープの長さが白いテープの長さの0.6倍に当たるとき、白いテープの長さを求める	40.6%	39.5%

- ・「量と測定」の領域は、全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

(例)		算数A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
	4	測定値の平均を求める	5日間で1日に平均何個のトマトがとれたことになるのかを書く	79.5%	81.7%

- ・「図形」の領域は、全道に比べて、やや低い傾向を示しており課題があります。

(例)		算数A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
※同様の例	6 (1)	四角形の内角の和が360°であることの理解	三つの角の大きさが、60° 80° 90° の四角形の残りの角の大きさを求める	71.9%	71.9%
※低い例	7	円の中心と半径についての理解	示された半円を描くために、コンパスの針を刺す場所と、コンパスの開いている長さを答える	65.4%	71.1%

- ・「数量関係」の領域は、全道とほぼ同様（上位）の傾向を示しています。

(例)		算数A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
※相当高い例	9	比例の関係の理解	直方体の底面の大きさを変えずに、高さを2倍、3倍、…にすると、体積はどのように変わるかを選ぶ	88.8%	81.4%

〈指導の改善にあたって〉

- ・整数、小数、分数の四則計算の仕方が定着するよう、必要に応じて繰り返し指導し、計算技能の習熟が図られる指導に努める必要があります。
- ・身の回りの具体物の大きさの見当を付ける活動を通して、面積についての感覚を豊かにする指導の強化が必要です。
- ・図形について、算数の用語を正しく用いて辺や面を適切に表現できる指導の強が必要です。

算数 B (主として「活用」に関する問題)

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを診る問題で構成されています。

- ・複数の処理の仕方を解釈し、一方が合理的な処置である理由を記述する。
 - ・図形を観察して筋道を立てて考え、面積の関係を記述する。
 - ・示された条件を基に、重さの求め方を記述する。
 - ・表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を記述する。
- 問題数は13問です。

- ・「数と計算」の領域は、全道と比べ、やや低い傾向を示しており課題があります。

算数B		設 問	石狩市正答率	全道正答率	
(例) ※同様 (上位) の例	1 (1)	硬貨の種類と枚数 に対応する金額	代金320円に対して520 円を支払ったとき、おつり としてもらった2枚の硬貨の種 類は	91.6%	91.2%
※低い例	4 (3)	条件を基にした、 重さの求め方の記 述	はかりの目盛と1人分の材料 と分量を基に、班の人数分 のご飯を作るために必要な水 の重さの求め方と答えを書く	21.7%	26.7%

- ・「量と測定」の領域は、全道と比べ、やや低い傾向を示しており課題があります。

算数B		設 問	石狩市正答率	全道正答率	
	2 (3)	算数用語の表現を 選択	2種類の跳び箱を30cm高くす ると同じ高さになるわけとし て、正しい記述を選ぶ	45.7%	49.5%

- ・「図形」の領域は、全道と比べ、やや低い傾向を示しており課題があります。

算数B		設 問	石狩市正答率	全道正答率	
(例) ※低い例	3 (2)	面積の関係の記述	面積が等しい直角三角形を基 に、長方形に内接する四角 形の面積と長方形の面積の 関係を書く	40.3%	46.3%
※同様 (下位) の例	5 (1)	円の性質を用いて 長さを求める	一輪車の高さを調節したとき の、示された長さを求める	60.0%	60.5%

- ・「数量関係」の領域は、全道と比べ、ほぼ同様(下位)の傾向を示しています。

算数B		設 問	石狩市正答率	全道正答率	
(例)	2 (1)	求める式を読み取 る	中型の跳び箱を8段にしたと きの高さを求める式を選ぶ	83.3%	84.6%

〈指導の改善にあたって〉

- ・図形の特徴を言葉や記号を用いて観察し、図形どうしの面積の関係を確実に理解できるよう、指導を強化する必要があります。
- ・身の回りから平面図形や立体図形を見出し、その図形の定義や性質を基に考察することで、合理的に処理できることを実感させる指導の強化が必要です。
- ・基準量、比較量、割合の関係を図に表したり、□を用いた式で表したりして、数量の関係を捉える活動の充実が必要です。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の63.6%に対して石狩市は66.7%で3.1%高くなっています。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道と同じ、92.2%を示しています。
- ・「算数の授業の内容はよくわかりますか(石狩市76.05%、全道76.2%)」「問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか(石狩市77.5%、全道77.8%)」と肯定的な回答は全道とほぼ同じ傾向を示しましたが、「授業で学習したことは将来役に立つと思いますか(石狩市88.0%、全道89.5%)」ではやや低くなっています。

平成24年度 全国学力学習状況調査の結果分析

【小学校理科】

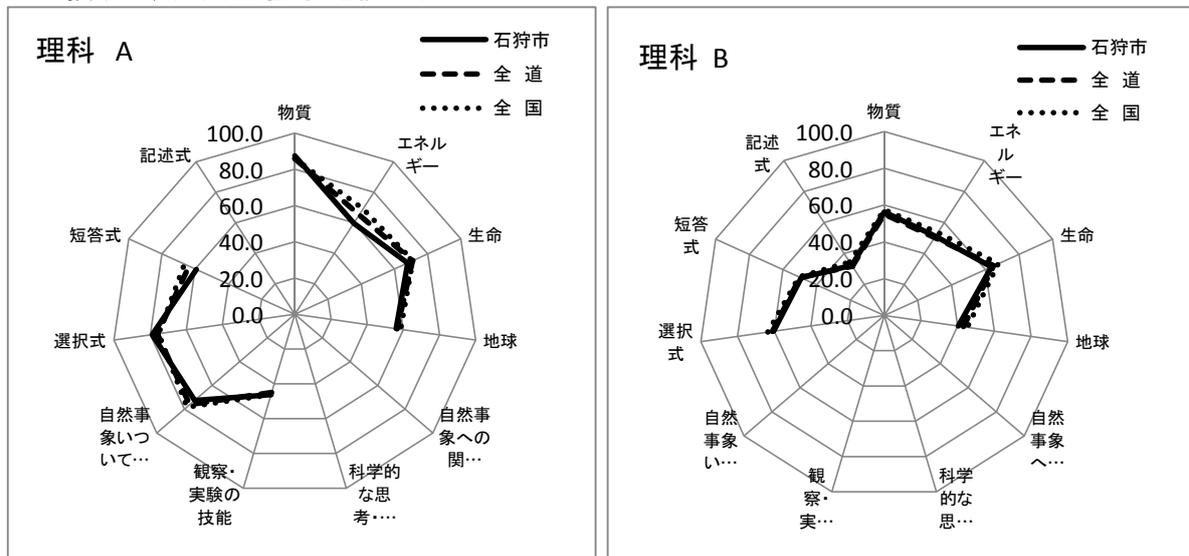
□ 正答率の状況 □

	理科A(主として「知識」に関する問題)		理科B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)抽出	4.8問/7問	69.1%	9.8問/17問	57.6%
全道(公立)	4.7問/7問	67.3%	9.4問/17問	55.1%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 : ○ 全国 : ☆				☆		○							☆	○			

相当高い	… 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位)	… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い	… 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い	… -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い	… 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い	… -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位)	… 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い	… -7ポイント以下の範囲
同様	… ±1ポイント未満の範囲内		

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 理科の概要 □

- 基本的な知識・技能については、全国や全道と同様の傾向が伺え、定着が見られます。
- 植物の受粉と結実のメカニズムについては、課題が見られます。
- 天気と気温の変化との関係について、データを基に分析し、その理由を記述することに課題が見られます。
- 解答時間が「あまった」や「ちょうどよかった」といった肯定的な回答、および無回答率については、全道の平均より良好な結果となっています。

理科 A（主として「知識」に関する問題）

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを診る問題で構成されています。

- ・物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解する。
 - ・光電池や乾電池の働きを強くするための要因を理解する。
 - ・虫眼鏡の適切な操作方法を身に付ける。
 - ・方位磁針の名称を理解する。
- 問題数は、7問です。

- ・「物質」の領域は、全道と比べ、ほぼ同様（上位）の傾向を示しています。

理科A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	1 (1) 物の重さ	氷砂糖を細かく割ったときの全体の重さについて、当てはまるものを選ぶ	87.4%	85.9%

- ・「エネルギー」の領域は、全道と比べ、低い傾向を示しており課題があります。

理科A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例) ※やや低い傾向の例	3 (1) ア 電池の強さの要因	車を動かす力を強くするための工夫について、光電池の特性や乾電池のつなぎ方から当てはまる言葉を書く	70.1%	74.7%

- ・「生命」の領域は、全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

理科A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例) ※やや高い例	2 (1) 虫眼鏡の使い方	虫眼鏡の適切な操作方法を選ぶ	70.1%	66.2%
※相当低い例	2 (4) 植物の受粉と結実の概念理解	「おしべの花粉がめしべの先につく」ことを表す言葉を書く	65.9%	75.4%

- ・「地球」の領域は、全道と同様です。

理科A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例) ※ほぼ同様（下位）の例	4 (1) 方位磁針の操作方法	方位磁針の適切な操作方法を選び、その時の太陽の方位を書く	22.3%	23.6%
	4 (2) 方位磁針の名称	方位磁針の名称を書く	89.6%	89.6%

〈指導の改善にあたって〉

- ・ 光電池や乾電池の働きを強くする要因を理解するためには、自らの操作と実際の物の動きと関係付けた結論に結びつける指導の充実が必要です。
- ・ 植物の成長の規則性を他の植物にも適応させ、受粉から結実までの現象を一般化させる指導の強化が必要です。

理科 B（主として「活用」に関する問題）

以下の内容で、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを診る問題で構成されています。

- ・物は、水に溶けると液全体に広がることを、梅ジュースに適用する。
 - ・電磁石の強さを変える要因について確かめる実験を、条件を制御しながら構想する。
 - ・植物の受粉と結実の関係を調べる実験について、結果を基に方法を改善して、その理由を記述する。
 - ・「かげの観察記録」を基に、木の影の長さの変化を表すグラフを分析する。
- 問題数は、17問です。

- ・「物質」の領域は、全道と同様です。

(例)	理科B	設問	石狩市正答率	全道正答率	
※ ほぼ同様（下位）の例	1 (4)	物の溶解	梅ジュースに溶けている砂糖の濃さについて、適切に説明しているものを選ぶ	60.2%	63.1%
※ ほぼ同様（上位）の例	3 (5) オ	水の状態変化とエネルギー	水の状態変化の説明として、当てはまる言葉を選ぶ	61.6%	60.6%

- ・「エネルギー」の領域は、全道と同様です。

(例)	理科B	設問	石狩市正答率	全道正答率	
※ ほぼ同様（上位）の例	3 (2)	ゴムのねじる回数と仕事量	ゴムをねじる回数と車の進む距離の関係を示すグラフから、ゴムをねじる回数を選ぶ	57.1%	54.6%
	3 (4)	電磁石の強さ	電磁石の強さを変えるための実験条件を書く	49.1%	49.9%

- ・「生命」の領域は、全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

(例)	理科B	設問	石狩市正答率	全道正答率	
※ やや低い例	2 (3)	サクラの開花時期	サクラが開花する地域について、データを基に、それぞれ当てはまるものを選ぶ	62.6%	67.9%
※ ほぼ同様（上位）の例	2 (5)	観察・実験の改善	スイカの受粉と結実の関係を調べる実験について、適切な実験方法を選び、選んだわけを書く	32.2%	29.9%

- ・「地球」の領域は、全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

(例)	理科B	設問	石狩市正答率	全道正答率	
	4 (5)	天気と気温の関係	天気の変化と気温の変化とを関係付けて、気温の変化を表したグラフを選び、選んだわけを書く	13.8%	16.3%

〈指導の改善にあたって〉

- ・観察・実験の結果を多様な観点から分析し、観察や実験方法の妥当性や信頼性を吟味しながら、批判的に捉えて考察できるよう指導の工夫が必要です。
- ・学校行事などに関連させて天気の変化について興味・関心を持たせ、雲や気温などの様々な気象条件について、多面的に考察できる指導の充実が必要です。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の82.5%に対して石狩市は86.4%で、3.9%高くなっています。
- ・「理科の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の85.5%に対して石狩市は、86.8%をで、1.3%高くなっています。
- ・「理科の授業の内容はよくわかりますか（石狩市88.0%、全道85.8%）」「授業で学習したことは将来役に立つと思いますか（石狩市72.7%、全道70.5%）」と肯定的な回答は、全道より高い傾向を示しました。

平成24年度 全国学力学習状況調査の結果分析

【中学校国語】

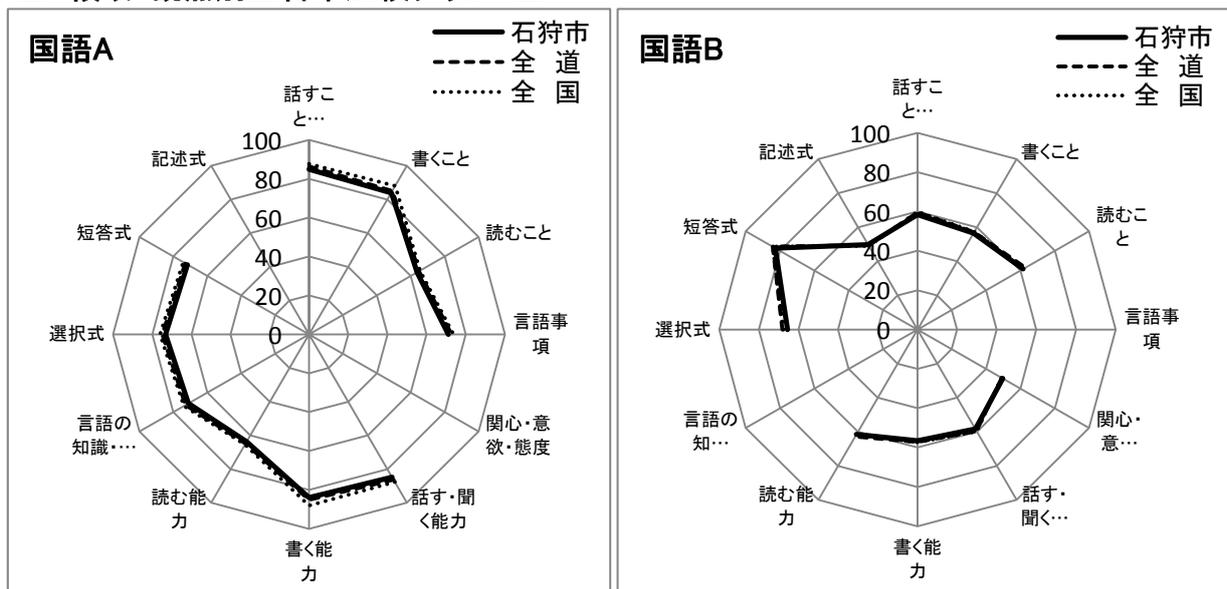
□ 正答率の状況 □

	国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)抽出	24.0問/32問	75.1%	5.7問/9問	63.3%
全道(公立)	23.7問/32問	74.0%	5.7問/9問	63.7%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	
	石狩市 ; ○ 全国 ; ☆				★		○									○			

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着しています。
- 国語Bの「読むこと」の領域は全国と同様です。
- 無解答率は全道とほぼ同様です。
- 漢字・語句等の定着、日常的な活用になお課題があります。
- 順序立てて考えたり、相手の立場に立ってわかりやすく説明することに課題があります。

国語 A (主として「知識」に関する問題)

基礎的・基本的な知識・技能が身につけているかどうかをみる問題で構成されています。

- ・指示された箇所として適切なものを選択する。
- ・道具について説明する一文を書き加える。
- ・指示された内容を本文中から抜き出す。
- ・漢字の音読みと訓読みの説明として適切なものを選択する。

問題数は32問です。

- ・「話すこと・聞くこと」の領域は全道と同様です。

国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	4一	適切な語句を選択して話す 聞き手にわかりやすい表現に直す	90.1%	90.6%

- ・「書くこと」の領域は全道と同様です。

国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	2二	相手に応じ文章を書き直す 書き足した文の説明として適切なものを選択する	82.7%	81.8%

- ・[言語事項]の中では、基本的な漢字の「書き」については全道と同様ですが、「読み」については全道と比べて低く、課題があります。

国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率		
(例)	7一	書く	2	「タンイ」(単位)	85.4%	85.7%
	7二	読む	1	「相違」(ソウイ)	56.3%	59.8%
			3	「採る」(ト-る)	63.8%	70.9%

- ・[言語事項]の中では、日常的に使用頻度が高い語句は意味を理解し適切に使えます。また、丁寧・謙譲・尊敬等、人との関わりに必要な言葉遣いもできています。論理や文章の展開に即して内容を理解することは「ほぼ同様(下位)」の傾向を示しています。

国語A		設問	石狩市正答率	全道正答率		
(例)	7三	意味の理解と活用	ア	部屋の雰囲気とよく調和している	84.2%	83.2%
			イ	先生が、 <u>私の家にいらっしゃる</u>	90.1%	89.5%
	7六	ローマ字	1	書く(たけくらべ)	88.5%	87.7%
	7七1	語句理解		「諸行むじょう」の漢字選択	64.4%	65.7%
	7七2	仮名の変更		「あらはす」⇒「あらわす」	94.1%	93.5%

〈指導の改善にあたって〉

- ・学習した漢字を各教科等の学習や日常の活動等で意図的に活用するなど、定着のための機会を意図的に設定する必要があります。
- ・漢字・語句等を正確に読み書きさせるだけでなく、用法を正確に理解し文脈に即して活用することができるよう、さらに指導に努める必要があります。
- ・目的や意図、場、相手に応じて、適切にわかりやすく文章を書くことの指導に努める必要があります。
- ・日常生活の中で、自分の考えを持ち、順序立てて考えたり相手の立場に立ってわかりやすく説明することの指導に努める必要があります。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用(応用)することができるかどうかをみる問題で構成されています。

- ・どのような言葉の使い方をしたいのか具体的な言葉の例をあげて書く。
- ・相手に応じた説明書の一部を書く。
- ・朗読の仕方の工夫とその理由を書く。

問題数は9問です。

- ・「読むこと」の領域で、文章を読み大意を把握することはほぼ同様(下位)の傾向を示しています。

	国語B	設問	石狩市正答率	全道正答率	
(例)	2一	語句の把握	言い換えている言葉を抜き出す	82.7%	84.3%

- ・「書くこと」「読むこと」の領域では、「具体的な言葉の例を挙げて書く」「必要な内容を選び、伝わるように書く」などはほぼ同様(上位)ですが、「内容を正確に捉える」「情報を関連付けて読み、考えを適切に書く」「自分の考えを論理的に書く」ことについてはやや低い傾向を示しており課題があります。

	国語B	設問	石狩市正答率	全道正答率	
(例)	1三	考えを書く	言葉の例を挙げて書く	22.4% (全国 19.7%)	21.4%
	2二	工夫して書く	工夫の適切なものを選択する	76.7%	80.5%
	2三	伝わるよう書く	相手に合わせた説明を書く	70.2% (全国 68.4%)	68.1%
	3二	展開を捉える	描かれている季節を選択する	38.4% (全国 34.2%)	41.6%
	3三	考えを書く	朗読の工夫と理由を書く	56.7%	58.7%

※ 全国より高い正答率の設問には全国の正答率も示してあります。

〈指導の改善にあたって〉

- ・全体としては、全道と比べ「やや低い」状態から「同様」へと改善が見られましたが、以下の点については今後も継続して指導に努める必要があります。
- ・「読むこと」の領域では、文の大意を把握することができている。これまでの読書活動への取り組みの成果と考えられるが、今後とも継続してゆくことが大切です。
- ・自分の伝えたい内容がより効果的に伝わるよう、作成した資料を見直し、聞き手の立場に立って組み替えてみたり、相互評価したりするなど、継続して指導に努めることが大切です。
- ・発展的な問題が多い中で、複数の情報を吟味し、必要なものを選び取ることに課題が残ります。基礎的知識の充実とともに、共通点や相違点をまとめるなど情報を整理したり、順序立てた考え方や多面的な見方や考え方ができるよう、日常生活に関連付けた指導に努める必要があります。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の57.0%に対して石狩市は61.3%で4.3%高い結果が出ています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の89.1%に対して石狩市は87.0%で2.1%低くなっています。
- ・「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の68.3%に対して石狩市は66.2%と2.1%低くなっています。
- ・「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の72.7%に対して石狩市は74.9%で2.2%高くなっています。

平成24年度 全国学力学習状況調査 結果分析

【中学校数学】

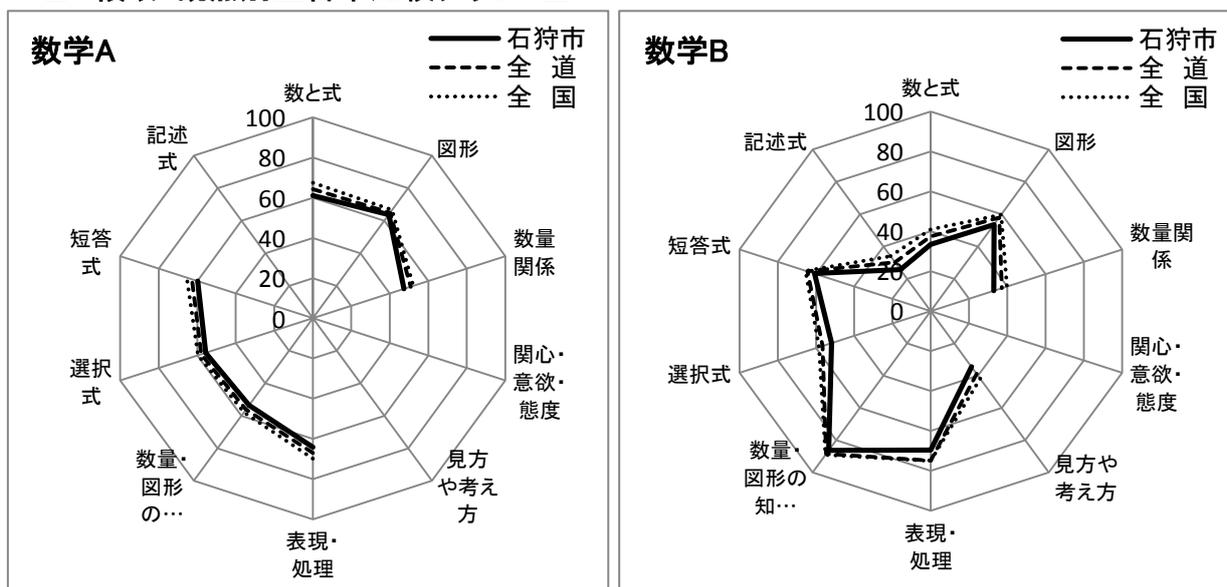
□ 正答率の状況 □

	数学A(主として「知識」に関する問題)		数学B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)抽出	22.4問/36問	62.1%	7.4問/15問	49.3%
全道(公立)	21.6問/36問	60.0%	7.0問/15問	46.9%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	
	石狩市 ; ○ 全国 ; ☆				☆		○							☆					○

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 数学科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着しています。
- 図形など、具体的事象の基礎・基本は全道と同様です。
- 基礎的・基本的事項の日常的な反復に課題があります。
- 基礎的知識の連携、論理的な思考に課題があります。
- 解答時間が「余った」「ちょうどよかった」の回答は全道と同様ですが、無解答率が高い傾向にあり課題があります。

数学 A (主として「知識」に関する問題)

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能の定着度をみる問題です。

- ・正の数・負の数や文字式とその計算。比例式、連立二元一次方程式を解く。
- ・方程式の解が問題の答えとして適否を調べる。
- ・平面図形の運動によって空間図形を構成する。
- ・具体的な事象から一次関数として捉えられるものを選ぶ。

問題数は36問です。

- ・「数と式」「図形」の領域の基本的な文字式や方程式の計算や解き方等は全道とほぼ同様です。

(例)	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	
※(下位)の例	1 (1)	最小公倍数	8と12の最小公倍数を求める	62.0%	63.7%
※ 同様の例	2 (3)	式の値の考察	整数aを用いて、式 $2a$ で表すことのできる数を選ぶ	33.5%	32.6%
※(上位)の例	4 (2)	対称移動図形	三角形を、直線を軸として対称移動した図形をかく	81.7%	78.8%

- ・「数量関係」の領域で、文字式、等式の変形、関数について数値の変化、 x と y の関係を式で表す等は全道と比べ低い状態にあり、基礎・基本事項の理解と習熟に課題があります。

(例)	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
9 (2)	比例	$y = 2x$ 上の点を選ぶ	43.8%	48.1%
12	反比例	反比例のグラフを選ぶ	43.4%	49.6%

- ・ 図形など具体的事象の関係について、基礎的・基本的な知識理解は全道に比べ高い状態にあります。

(例)	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
5 (3)	図形	三角柱の展開図として正しいものを選ぶ	94.9%	92.8%
6 (1)	図形	三角定規による平行線の作図の正しい記述の選択	50.3%	41.2%

〈指導の改善にあたって〉

- ・ 基礎的事項の習熟には日常的に繰り返すことが大切であり、意識的・計画的に演習するなど、反復して定着に努める必要があります。

(例)	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率
1 (2)	数と式	$6 - (-7)$ を計算する	81.0%	83.3%
2 (1)	数と式	$(7x+5y) - (5x+2y)$ を計算する	75.6%	78.9%

- ・ 具体物を活用するなど、視覚的な教材を工夫し理解を深める必要があります。
- ・ 「数量関係」領域の特に比例・反比例については、語句の意味の理解やグラフと式の関係等を復習し、演習を繰り返し定着させる必要があります。

数学 B（主として「活用」に関する問題）

数量や図形についての知識・技能などを実生活の場面に活用する力や、さまざまな課題解決のために構想を立てて実践し改善する能力を診る問題です。

- ・ 計算から分かることを選び、その理由を説明する。
- ・ 記録を読み取り、それをもとに予測し、その理由を説明する。
- ・ 図形の性質に基づいて、長さを求める方法を説明する。
- ・ 正多角形の頂点の数と1つの外角の大きさの関係が反比例する理由を説明する。

問題数は15問です。

- ・ 個々の基礎的知識を連携させたり論理的・発展的に考えたりすることは、全道と比べやや低い傾向にあり課題があります。

数学 B		設 問	石狩市正答率	全道正答率	
(例)	3 (2)	理由を数学的表現で説明	より遠くへ飛びそうな選手を選び、その理由を説明する	33.9%	40.3%
	5 (1)	情報の選択と処理	2つの数値から、木の高さを求める	64.2%	67.2%
	5 (1)	情報の選択と処理	2つの数値から、木の高さを求める	64.2%	67.2%

- ・ 無解答率が全道に比べやや高い傾向にあり課題があります。

数学 B		設 問	石狩市		全 道		
			正答率	無解答率	正答率	無解答率	
(例)	5 (3)	図形	長さを求められるようにするための方法を説明する	13.1%	54.1%	16.7%	47.9%
	6 (2)	数量（関数）	正多角形の頂点の数と1つの外角の関係の表現	14.2%	37.2%	16.2%	33.7%

〈指導の改善にあたって〉

- ・ 基礎的知識の充実、数式等の意味・成り立ち、筋道を立てて考えることなど、課題を整理・確認し繰り返し指導・確認する必要があります。
- ・ 領域の関連性を考えて活用できるよう、繰り返し学習に取り組む必要があります。
- ・ 資料を読み取り、数理的に考察することを位置付けた学習に取り組む必要があります。
- ・ 日常生活の中から数学的な考え方が導き出せるように取り組む必要があります。
- ・ 無解答率の向上には、時間を効果的に活用し最後まであきらめずに考えるよう、日常的に指導を続けることが大切です。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・ 「数学の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の52.7%に対して石狩市は48.2%で4.5%低くなっています。
- ・ 「数学の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の81.1%に対して石狩市は75.8%で5.3%低くなっています。
- ・ 「数学の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の64.4%に対して石狩市は58.6%と5.8%低くなっています。
- ・ 「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の92.3%に対して石狩市は90.2%で2.1%低くなっていますが、多くの生徒が「できるようになりたい」との願望をもっていることがわかります。

平成24年度 全国学力学習状況調査の結果分析

【中学校理科】

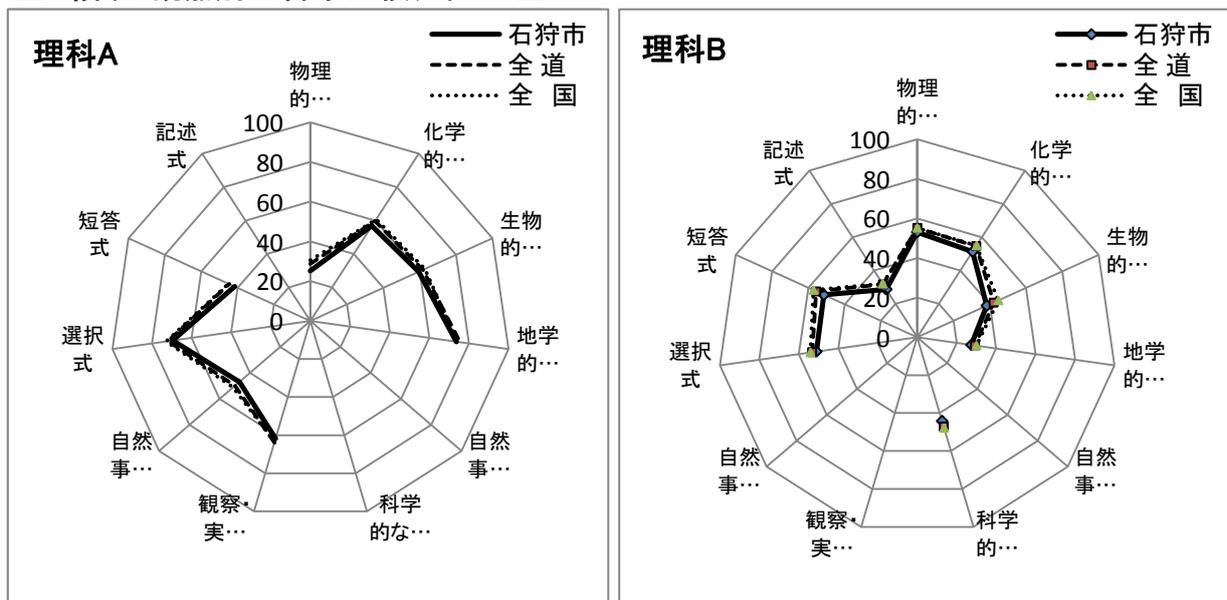
□ 正答率の状況 □

	理科A(主として「知識」に関する問題)		理科B(主として「活用」に関する問題)	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
全国(公立)抽出	5.6問 / 10問	56.1%	7.6問 / 16問	47.8%
全道(公立)	5.6問 / 10問	55.5%	7.5問 / 16問	47.0%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 ; ○ 全国 ; ☆					☆	○									☆	○	

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 理科の概要 □

- 基礎的・基本的事項の知識理解はほぼ定着しています。
- 情報から、論理的に考え、類推することに課題があります。
- 物理的領域、応用・発展的課題の習熟に課題があります。
- 解答時間が「余った」「ちょうどよかった」の回答は全道と同様ですが、無解答率が高い傾向にあり課題があります。

理科 A (主として「知識」に関する問題)

理科に関する「基礎的・基本的な知識・技能」は、単に身につけているだけでなく、観察実験など科学的に探究する学習活動や日常生活において課題を解決する場面で実際に活用できることで、一層意義が増します。そのため、出題の構成は、「知識」と「活用」には区分しないで、一体的に問うものとなっています。

ここでは、基礎的・基本的な知識と理解、観察・実験の技能の基礎を問う問題に関してまとめています。

- ・ 図から電流の大きさを読み取る。
- ・ 食塩の粒子モデルで表したのから選ぶ。
- ・ 光合成や化学変化で発生する気体の名称を答える。

問題数は10問です

- ・ 地学的領域は全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

理科 A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	3 (1)	地層の観察 地層調査における着目事象・観察の観点の選択	85.7%	86.4%
	3 (5)	示相化石 アサリの化石が含まれる地層が堆積した当時の生活環境	58.1%	61.4%
	3 (6)	石灰岩の分類 石灰岩を見分ける技能で発生する気体の名称を答える	77.0%	78.4%

- ・ 生物的領域はほぼ全道とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

理科 A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	1 (1)	呼吸と光合成 水草の働きの名称と発生する気体の名称を答える	50.3%	54.3%
	1 (3)	胚珠と成長 成長して種子になる部分の名称を選ぶ	68.6%	69.2%

- ・ 物理的領域・化学的領域では、全国的にも正答率は低い傾向ですが、実験観察、論理的思考や計算等を理解することには全道と比べやや低い傾向にあり、課題があります。

理科 A		設 問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	2 (1)	電流計の読み方 電圧1.2Vのときの電流の大きさを読み取る	36.9%	42.3%
	2 (6)	電力量の理解 白熱電球とLED電球の電力量の差を求める	10.2%	11.1%
	4 (3)	浮力の理解 食塩水の中で卵にはたらく浮力の大きさを求める	28.2%	32.8%

〈指導の改善にあたって〉

- ・ 自然の事象や日常生活との関連性のある生物的領域や地学的領域についての基礎的・基本的事項は、今後もさらに充実に努める必要があります。
- ・ 物理的領域や化学的領域では抽象的・論理的思考や数値の把握及び計算、実験観察等が必須であり、生徒が興味関心を持って取り組める教材の工夫、指導に努める必要があります。
- ・ 日常生活環境の中で、自分の考えを持ち、順序立てて考えたり相手の立場に立ってわかりやすく説明することの指導に努める必要があります。

理科 B (主として「活用」に関する問題)

ここでは、基礎的・基本的な知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を問う問題や、総合的な見方や考え方を問うために、分野や項目を横断した問題に関してまとめています。

- ・実験結果から消費電力を比較して答える。
 - ・検証のための実験方法と得られる結果として正しいものを選ぶ。
 - ・観察結果から、他者の考察を検討し、適切な答えを選び、その根拠を説明する。
- 問題数は16問です。

- ・領域に関わらず、自然事象や日常生活に関連する問いの正答率は全道同様です。

理科B		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	2 (4) 実験の計画	白熱電球とLED電球の比較実験の条件選択	77.2%	76.0%
	3 (2) 地層と傾斜	地層のつながり方から、地層の傾斜の方向を選択	31.4%	31.2%

- ・論理的思考や類推、及び説明することは全道と比べやや低い傾向にあり、課題があります。

理科B		設問	石狩市正答率	全道正答率
(例)	2 (2) 実験の説明	同じ結果を得るための測定方法を説明する。	7.6%	8.2%
	2 (3)x 消費電力の比較	豆電球と発光ダイオードの消費電力を比較し答える	47.6%	52.5%
	2 (5) 根拠の説明	消費電力を減らす場所の選択とその理由の説明	51.6%	56.1%

〈指導の改善にあたって〉

- ・実験の目的を把握し、必要な情報・条件を整理比較して説明できるよう指導に努める必要があります。
- ・発展的な問題が多い中で、複数の情報を吟味し、必要なものを選び取ることに課題があります。基礎的知識の充実とともに、共通点や相違点をまとめるなど情報を整理したり、順序立てた考え方や多面的な見方や考え方ができるよう、日常生活に関連付けた指導に努める必要があります。
- ・発展的問題の対応として、設問がどのような基礎・基本事項で構成されているかを分析し、理解させる必要があります。活用の考え方は類似問題を繰り返すことで定着させる必要があります。

教科に関する意識 (質問紙の傾向)

- ・「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の67.4%に対して石狩市は68.3%で0.9%高い結果が出ています。
- ・「理科の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の68.8%に対して石狩市は63.2%で5.6%低くなっています。
- ・「理科の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的な回答は、全道の67.3%に対して石狩市は61.8%と5.5%低くなっています。
- ・「将来理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の22.6%に対して石狩市は23.4%で同様です。
- ・「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対する肯定的な回答は、全道の37.5%に対して石狩市は38.8%でほぼ同様です。

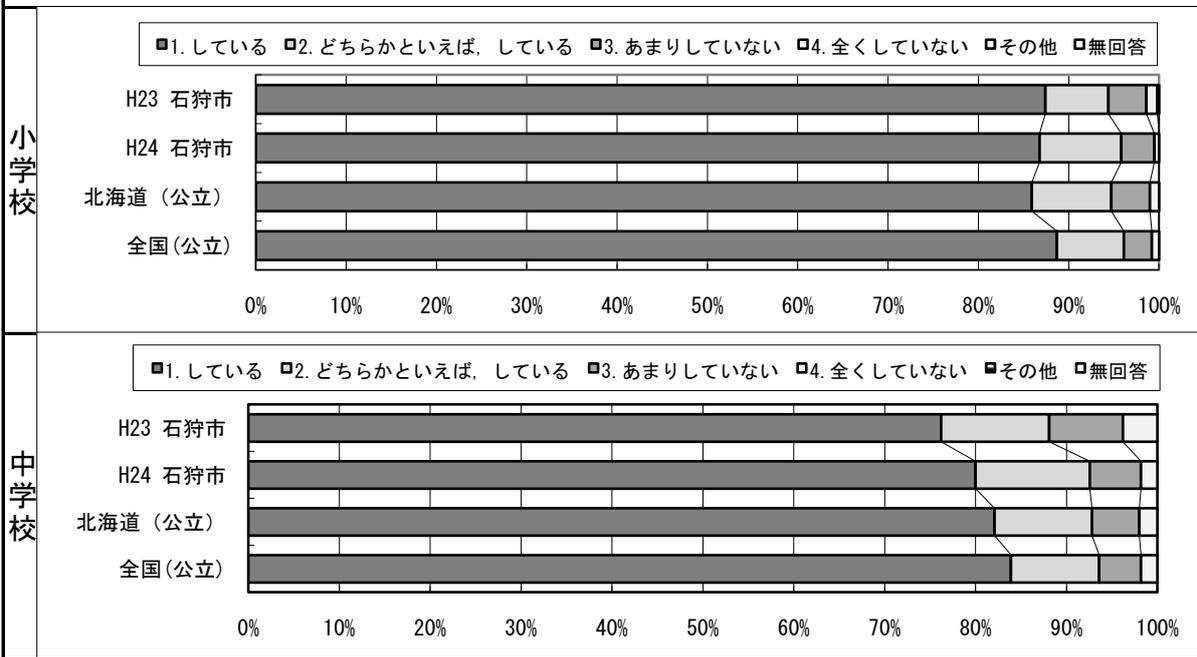
学習状況調査「児童・生徒質問紙」より

I 生活習慣

朝食を食べる習慣…中学生に改善

朝食を毎日食べる割合は、小学生では86.8%(北海道比1.1ポイント高い)、中学生では、80.0%(北海道比2.0ポイント低い)傾向であり、中学生に改善が見られます。

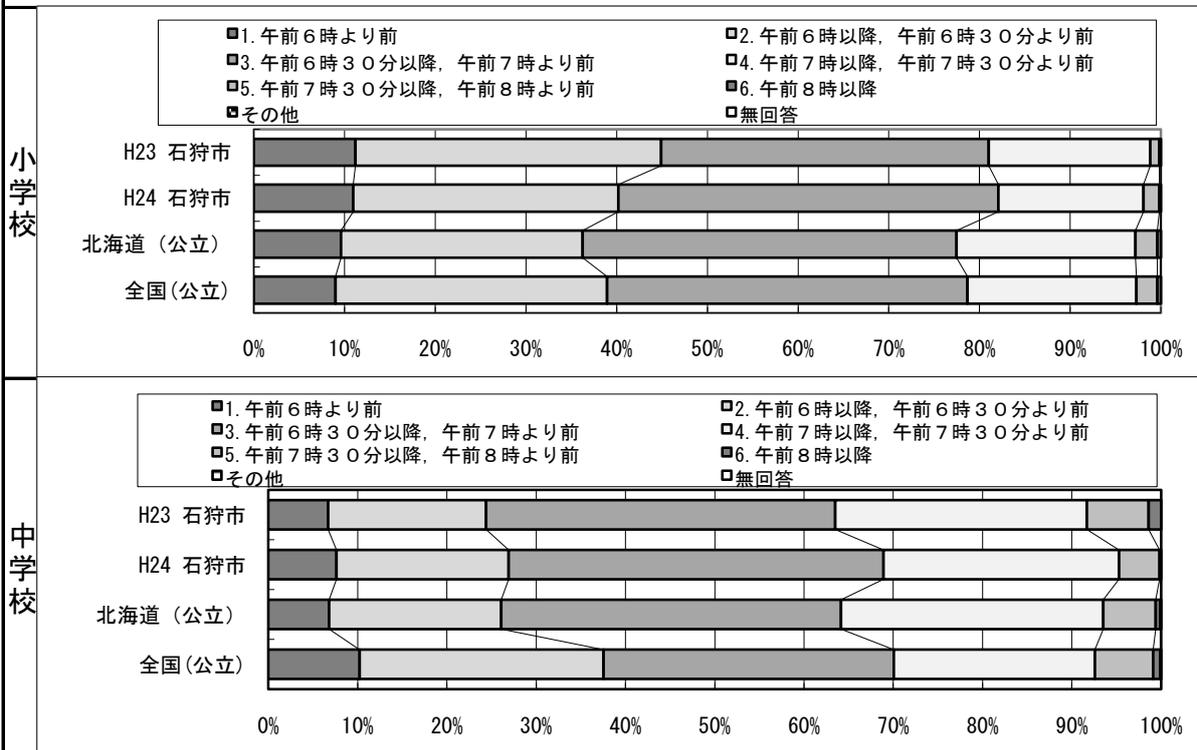
1. 朝食を毎日食べていますか



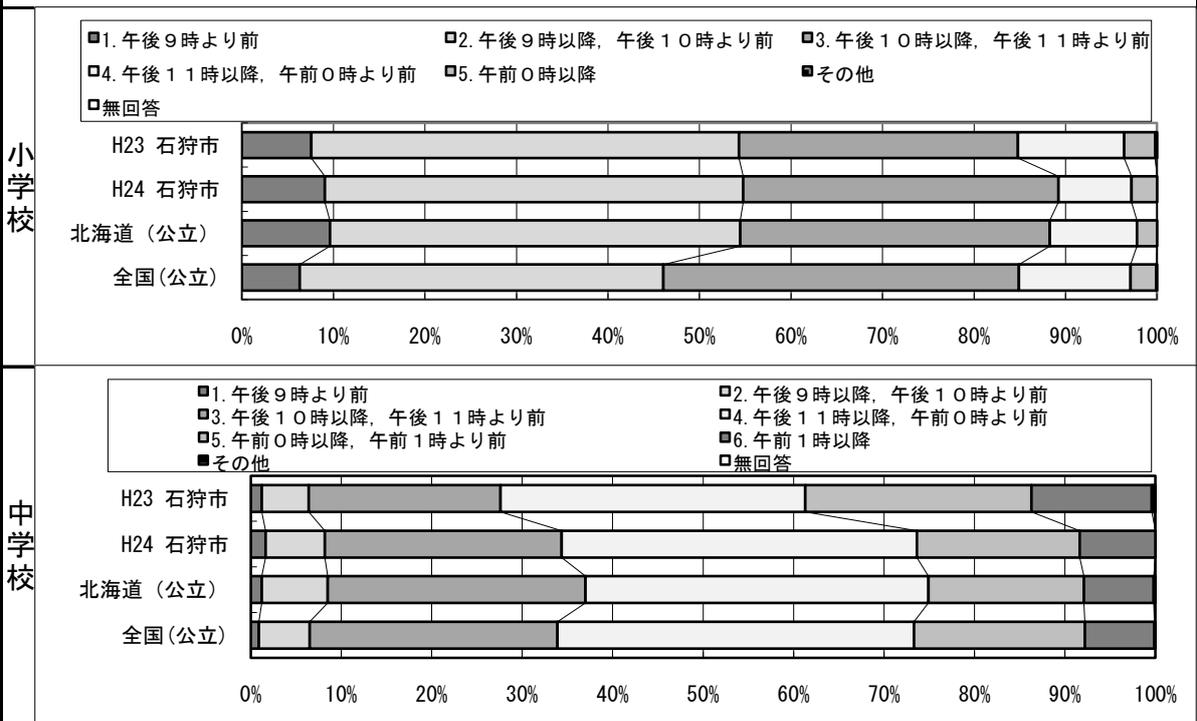
起床・就寝…「生活リズム」に改善

朝7時前に起床(全道比小学生4.7ポイント高く、中学生4.7ポイント高い)する児童・生徒の割合が増えています。また、就寝時間については、10時前に寝る小学生は全道比1.1ポイント高く、11時前に寝る中学生は全道比2.7ポイント低い傾向です。

2. 普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか



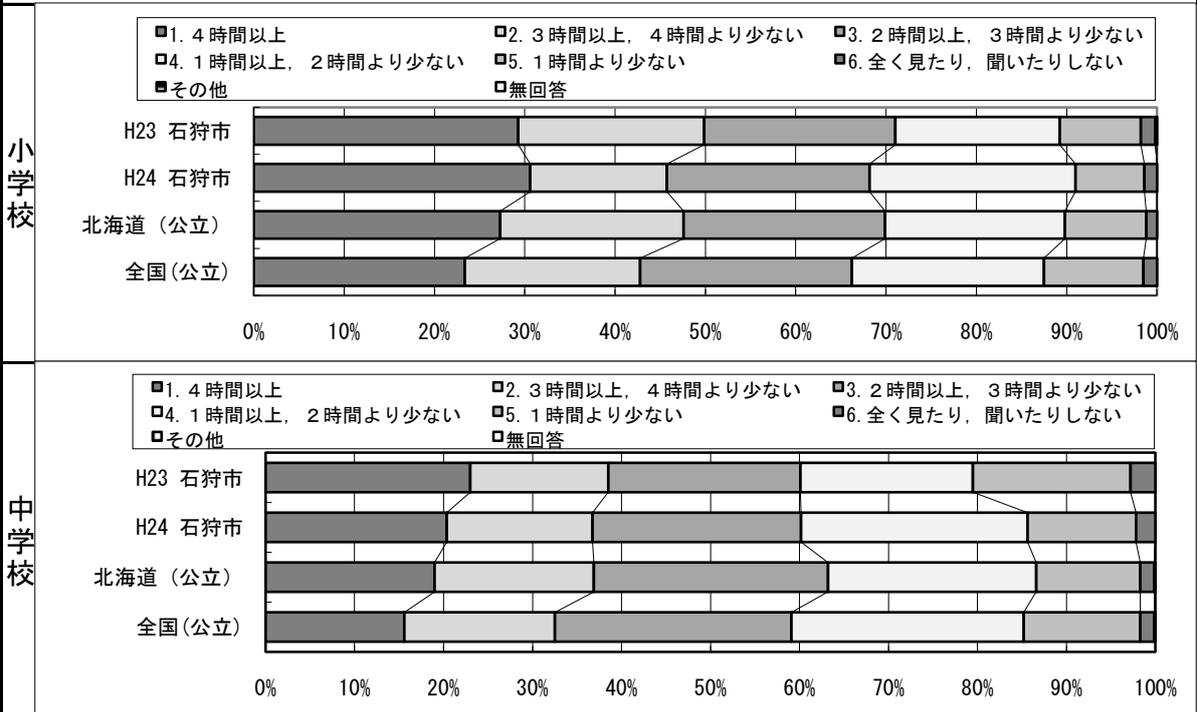
3. 普段(月～金曜日), 何時ごろに寝ますか



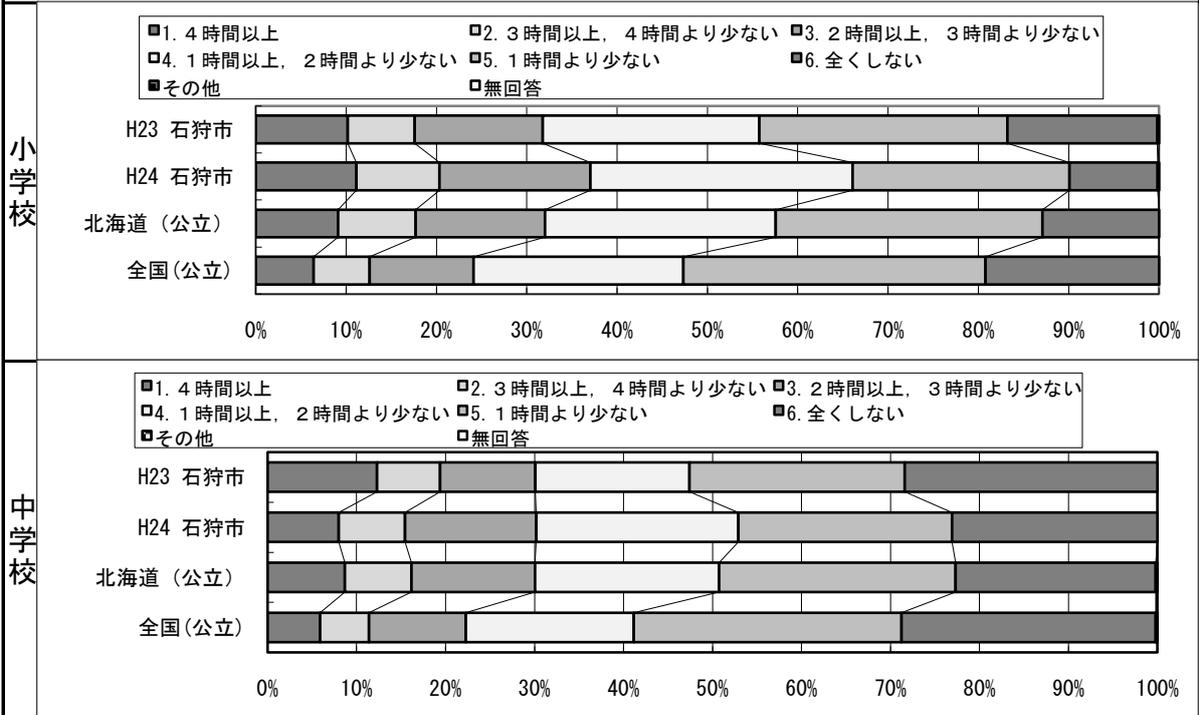
小学生のTVゲーム(コンピューターゲーム、携帯式ゲーム)をする時間…依然長め

平日にテレビ、ビデオ、DVDを見ている時間については、3時間以上見ている割合が、小学生で45.7%(全道比1.9ポイント低い)、中学生で36.8%(全道比0.1ポイント高い)と改善が見られます。テレビゲームをする時間については、2時間以上している割合が、小学生では37.0%(全道比5.0ポイント高い)と増加しており課題と言えます。中学生では30.2%(全道比0.1ポイント高い)と、前年と同様となっています。

4. 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



5. 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム含む)をしますか



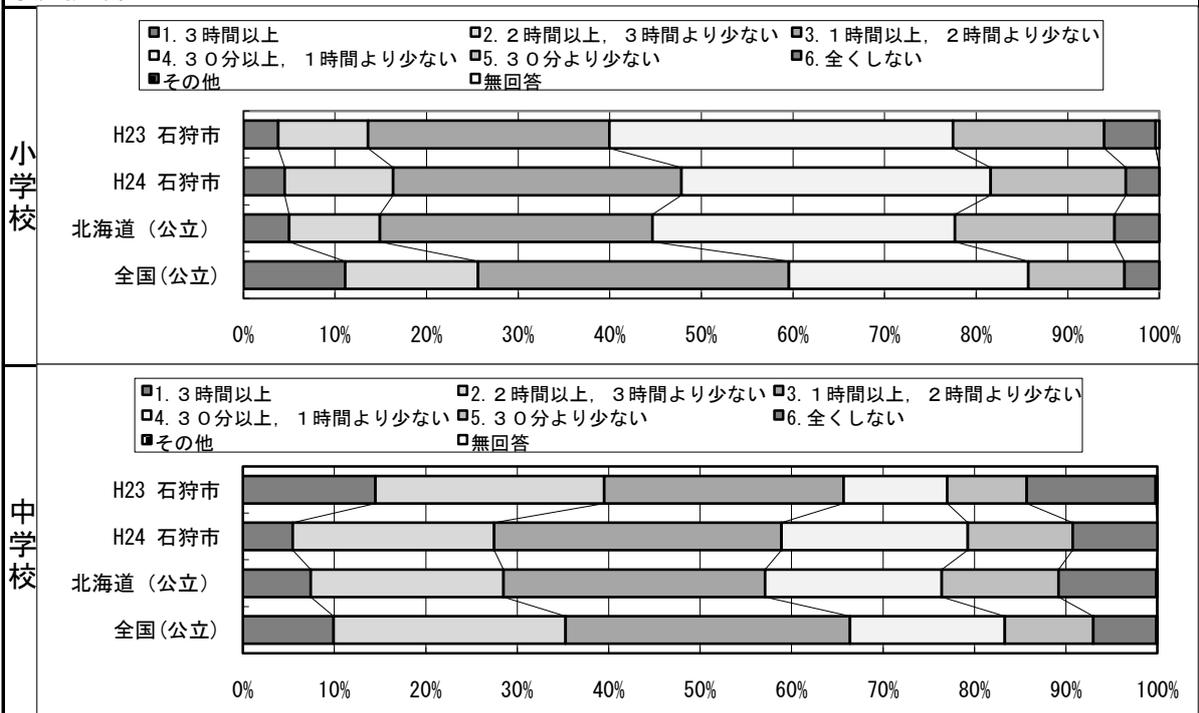
II 家庭学習・読書

毎日、1～2時間の家庭学習が増加

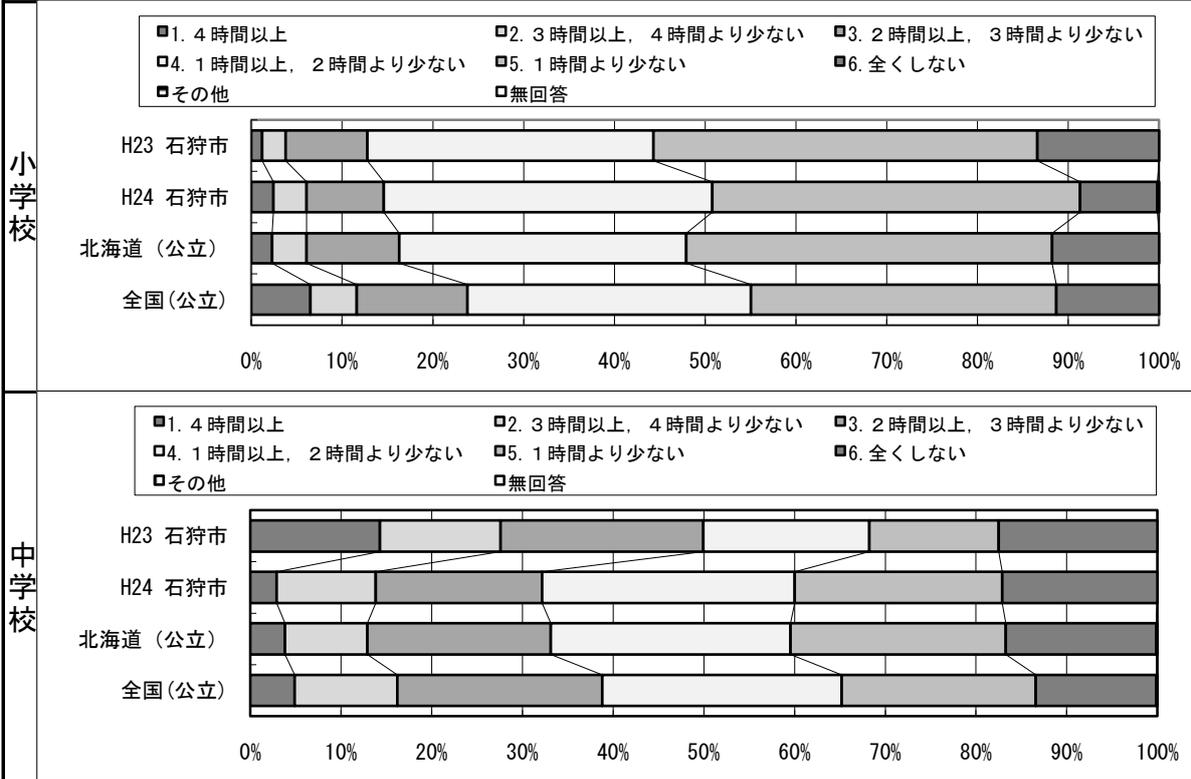
平日(月～金曜日)における家庭での学習時間は、「1時間未満(全くしないも含む)」と回答した割合は、小学生では52.2%(全道比3.1ポイント低い)と改善されましたが、中学生では41.2%(全道比1.6ポイント低い)と後退しており課題となっています。

土・日曜日についても同様の傾向を示し、小・中共に、毎日1～2時間の家庭での学習が増えていますが、中学生では、「平日3時間以上」が1/3に、「土・日4時間以上」が1/4程度に、大幅に減少しており課題と言えます。

6. 学校の授業時間以外に, 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



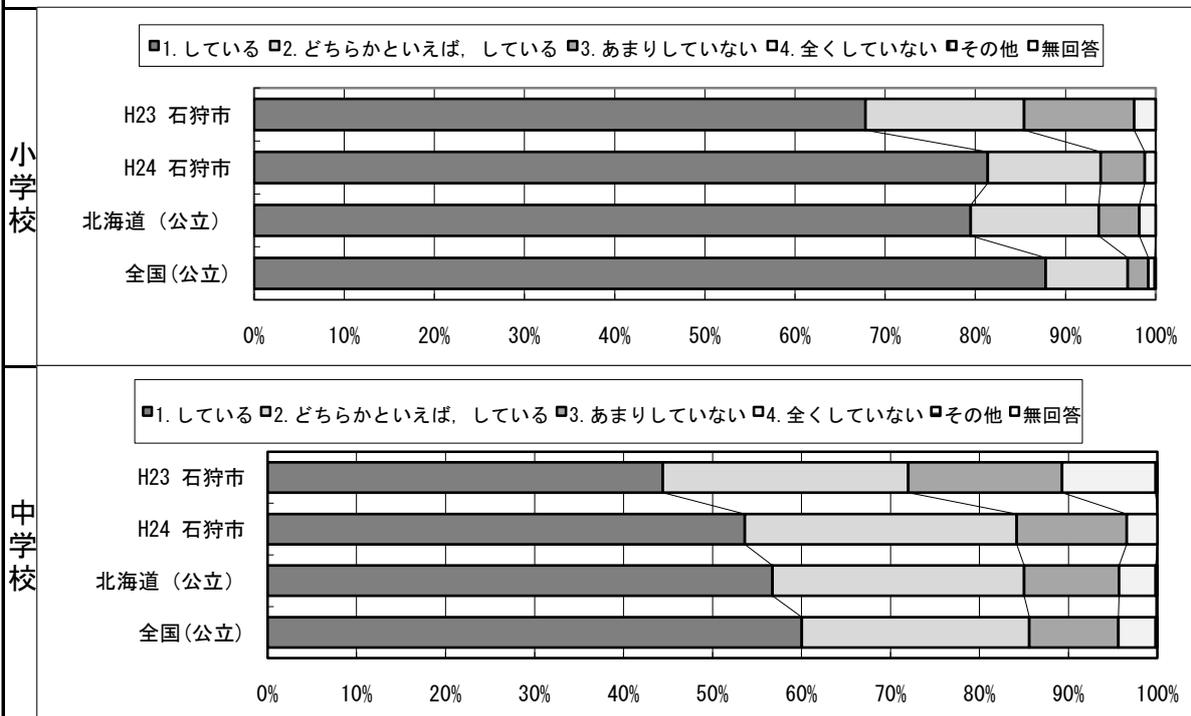
7. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



家で宿題をする習慣の定着

「家で宿題をしている・どちらかといえば、している」と回答した割合は、小学生では93.9%(全道比0.2ポイント高い)、中学生では84.1%(全道比1.0ポイント低い)。小・中学生とも、昨年度と比べ、宿題を家でする割合(前年比、小学生がプラス8.4%、中学生がプラス12.1%)が、大きく増えています。

8. 家で、学校の宿題をしていますか

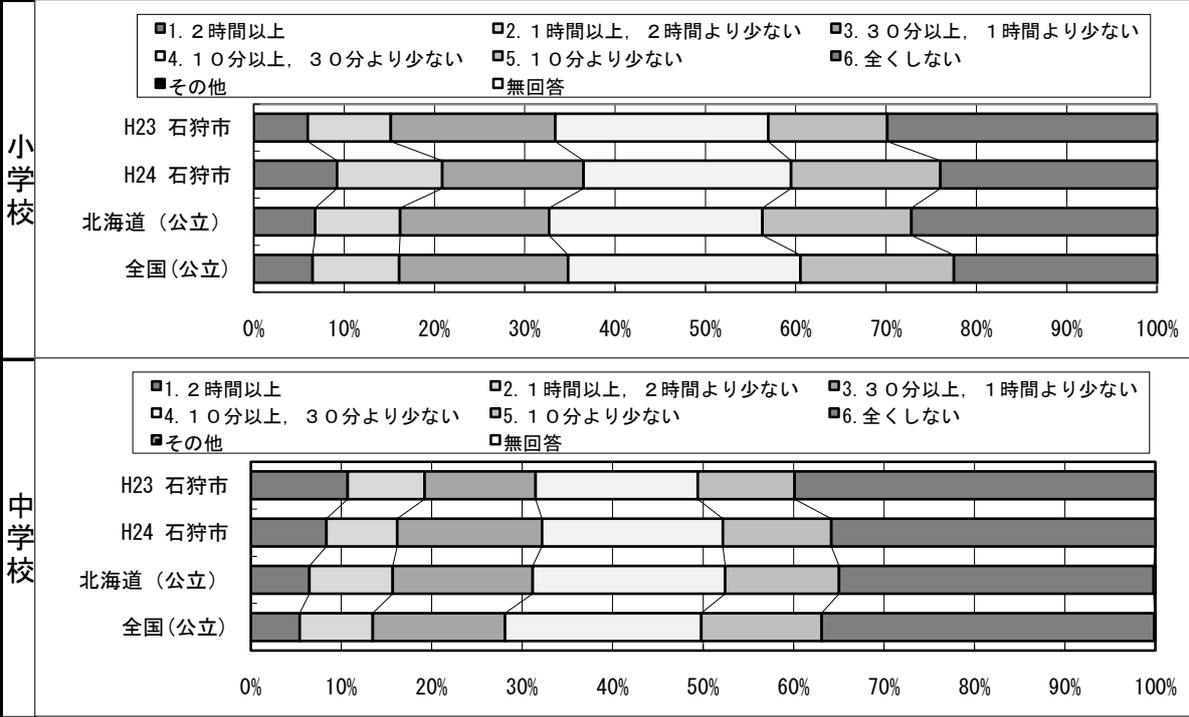


全道より多い家庭での読書

1日に30分以上読書する小学生は36.6%(全道比3.9ポイント高い)、中学生では32.2%(全道比2.1ポイント高い)。

一方、全く読まないと回答した小学生は24.0%で、全道より3.2ポイント低く、中学生は35.8%と、全道と比べ1.0ポイント多い傾向となっています。

9. 家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)

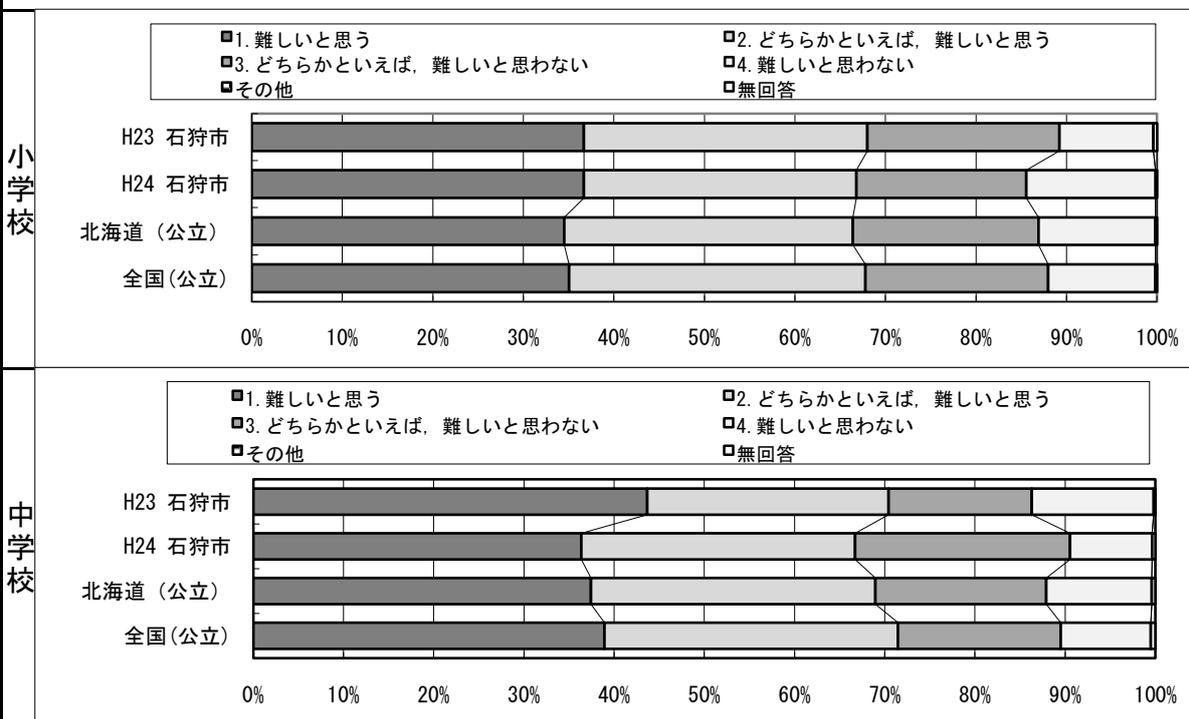


Ⅲ 国語の学習について

決められた字数の作文が苦手…全道とほぼ同じ

決められた字数に合わせて作文を書くことについて「難しい」と回答した小学生は66.8%(全道比0.4ポイント高い)、中学生は66.8%(全道比2.1ポイント低い)と改善傾向が伺えます。

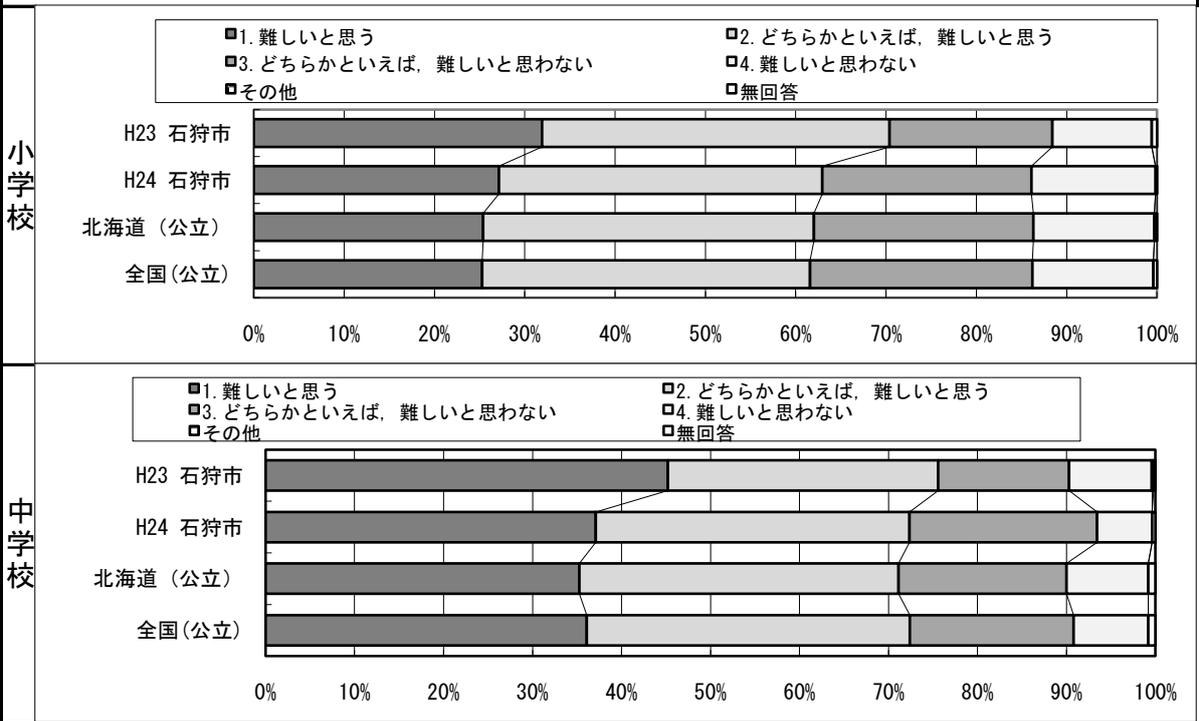
10. 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか



自分の考えを表現すること…全道とほぼ同じ

自分の考えを言葉や文章で表現することが難しいと思っている割合は、小学生で62.9%(全道比0.9ポイント高い)、中学生で72.4%(全道比1.2ポイント高い)傾向を示しています。

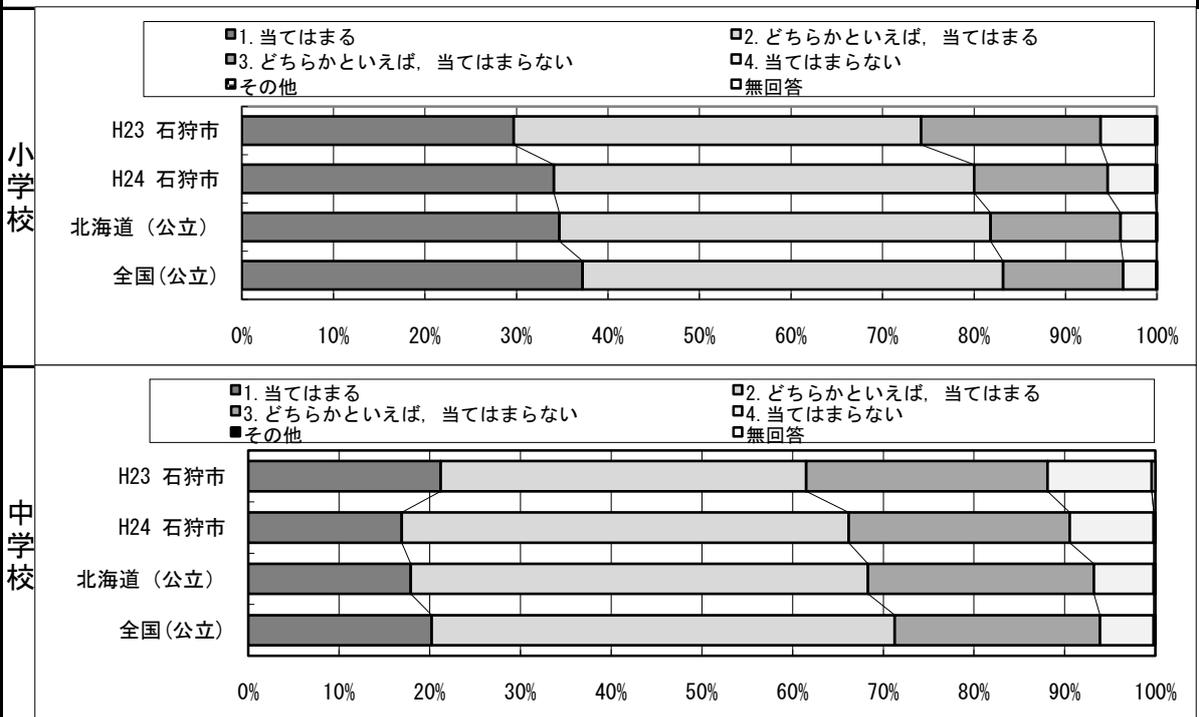
11. 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



「国語の授業が分かる」…増加

国語の授業の内容が分かる」と回答したのは、小学生では80.0%(全道比1.8ポイント低い)、中学生では66.2%(全道比2.1ポイント低い)。何れも全道平均には達していませんが、昨年度より向上しています。これまでの授業改善の成果が伺えます。

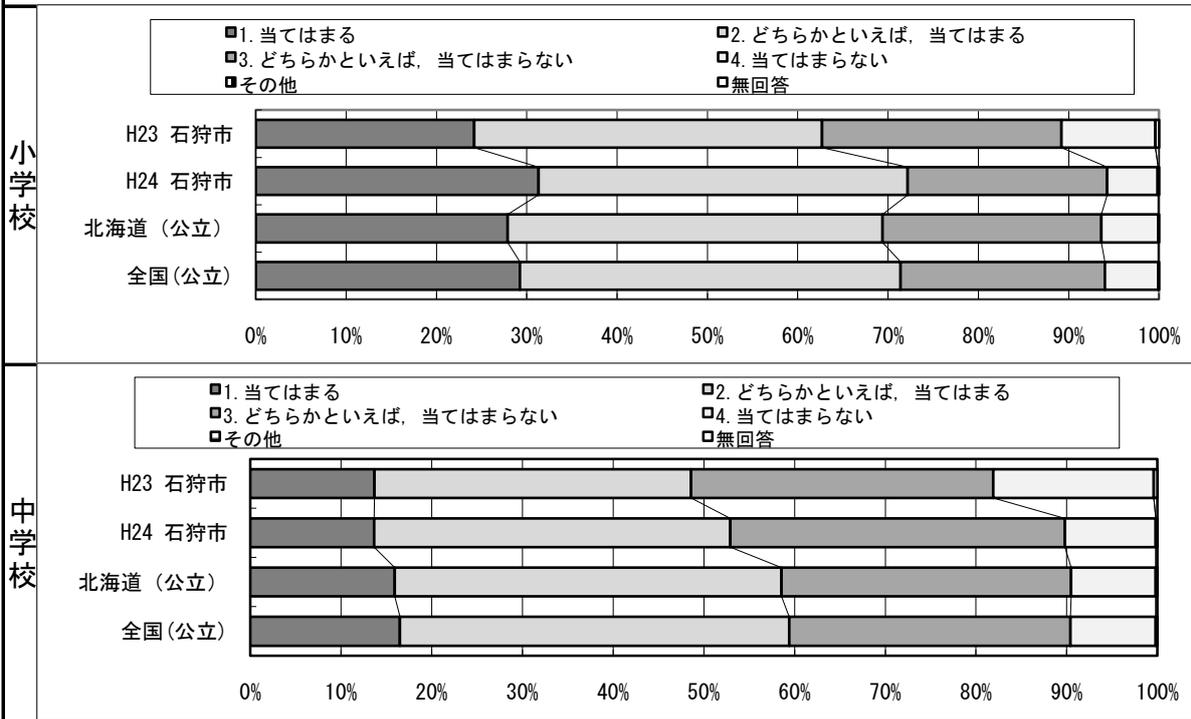
12. 国語の授業の内容はよく分かりますか



根拠を明らかに書くこと…小学生で大きな改善

自分の考えを根拠を明らかにして書く姿勢については、小学生では72.2%(全道比2.8ポイント高い)、中学生では52.9%(全道比5.6ポイント低い)となっており課題と言えます。小学生においては、全国との比較でも0.9ポイント高い傾向です。

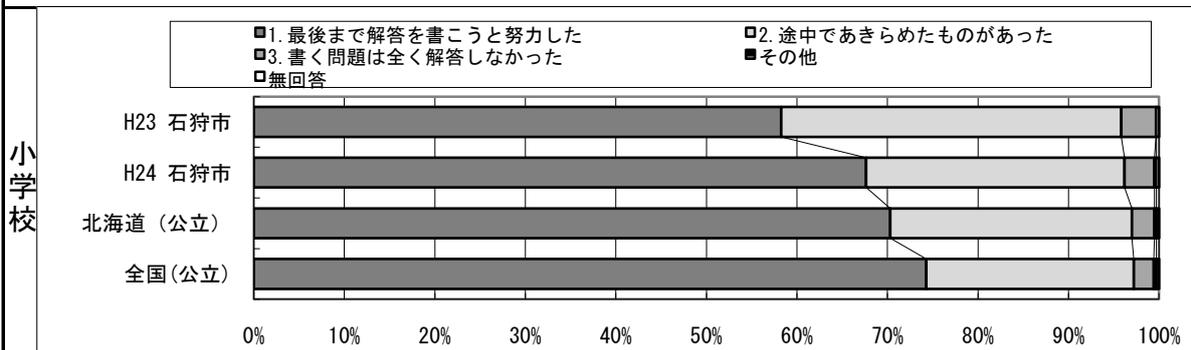
13. 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか



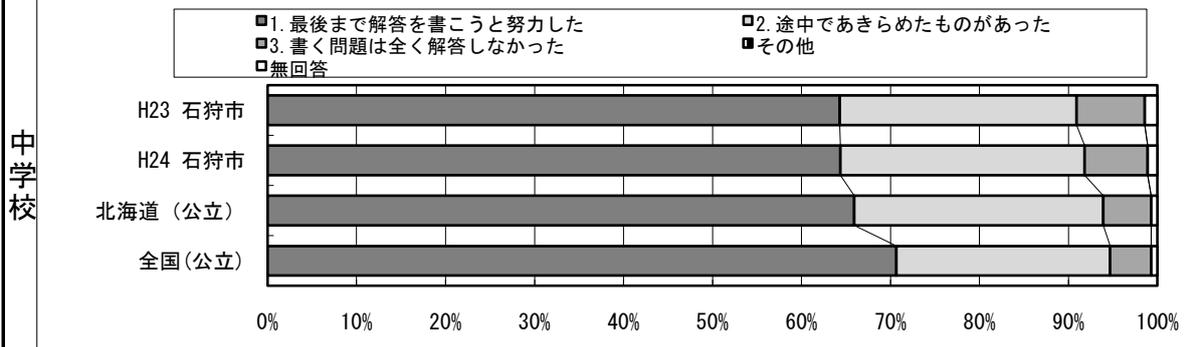
文章で答える問題…小学生に意欲の向上

文章で答える問題については、「最後まで努力した」と回答した小中学生は67.7%(全道比2.6ポイント低い)、中学生は64.4%(全道比1.66ポイント低い)。昨年度に比べ、小学生に改善が見られます。

14. 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。どのように解答しましたか



14. 今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。最後まで解答を書こうと努力しましたか



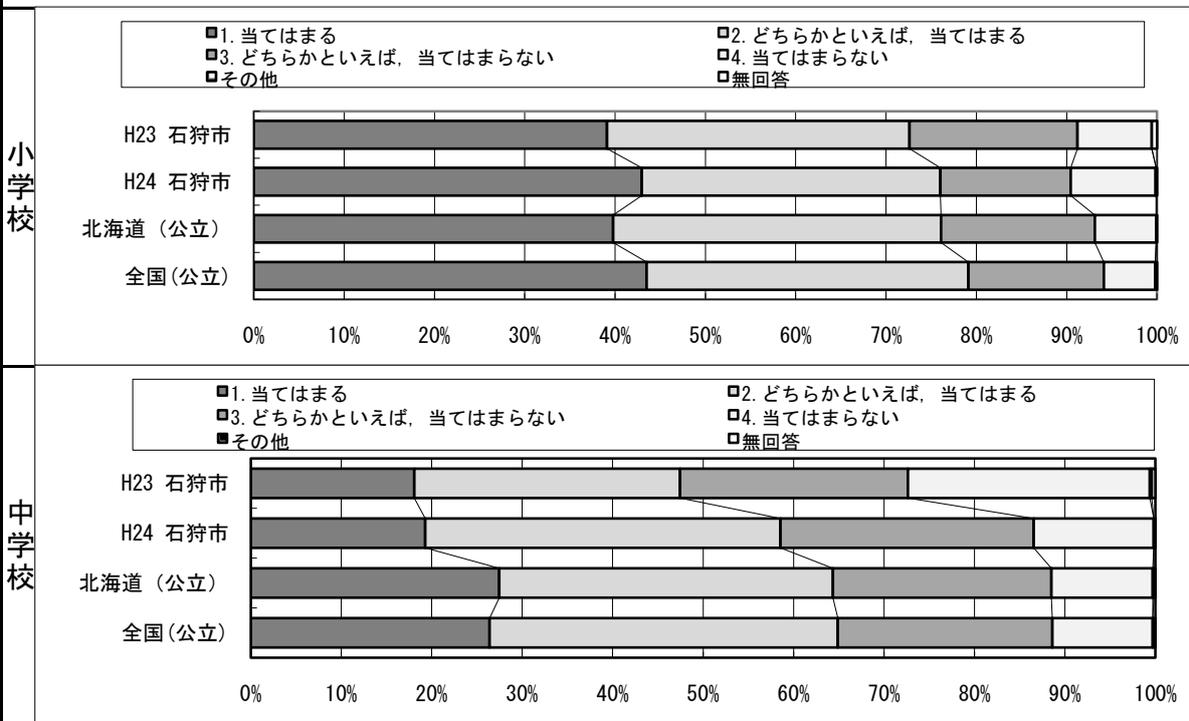
IV 算数・数学の学習について

「算数の授業が分かる」…増加

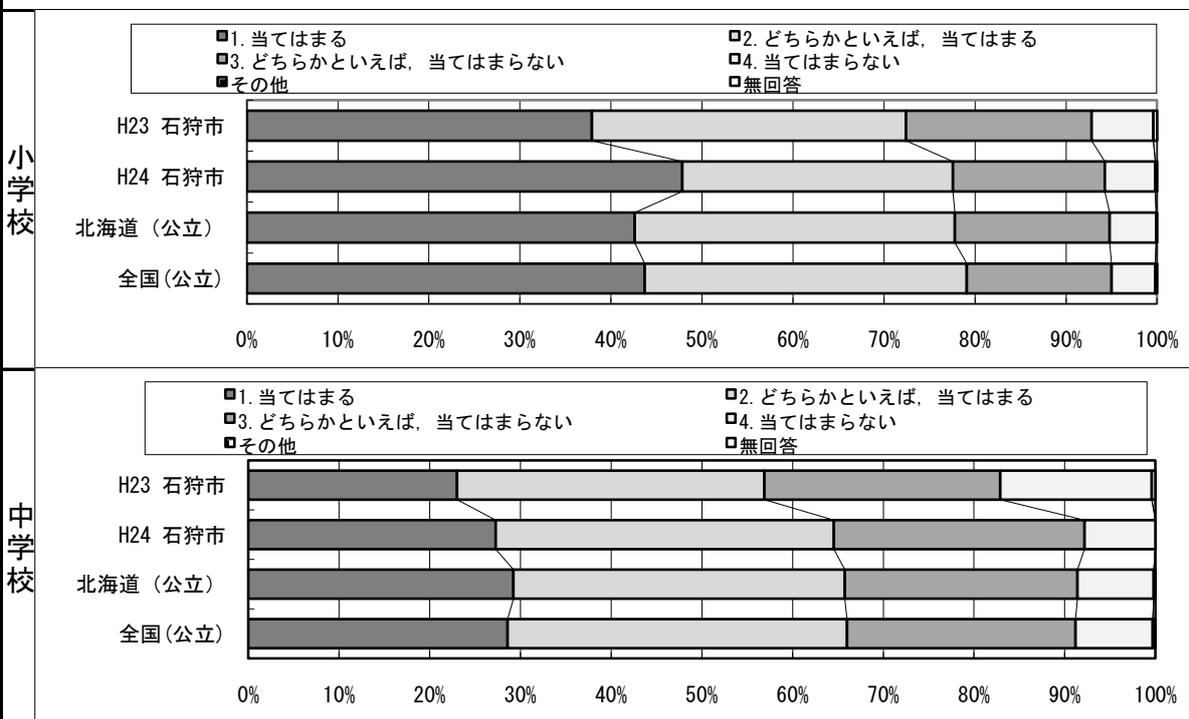
算数・算数の授業の内容が分ると解答したのは、小学生では76.0%(全道比0.1ポイント低い)、中学生では58.6%(全道比5.8ポイント低い)。

分からない問題への対処の仕方についても、改善が見られます。諦めずに問題の解き方を工夫すると回答した小学生は77.5%(全道比0.3ポイント低い)、中学生では64.6%(全道比1.1ポイント低い)と、何れも全道平均には達していませんが、昨年度より向上が見られます。これまでの授業改善の成果と考えられます。

15. 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



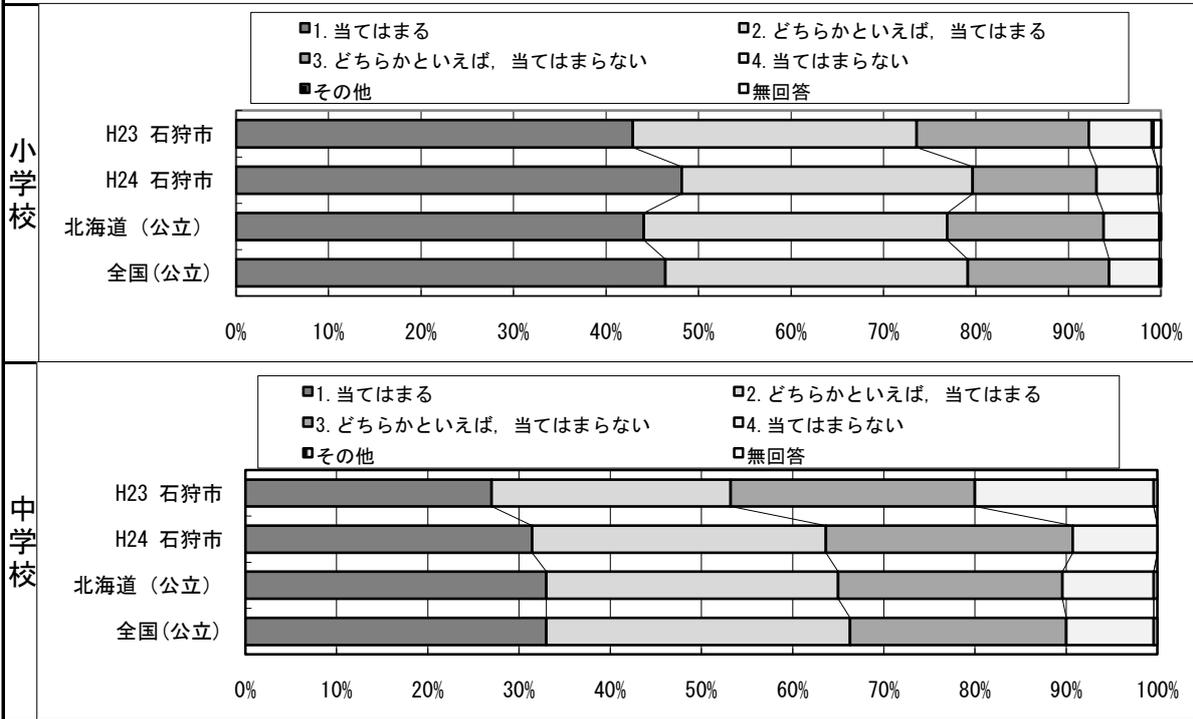
16. 算数・数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか



工夫した問題解決の姿勢が定着

もっと簡単に解く方法を考えると回答したのは、小学生では79.7%(全道比2.8ポイント高い)、中学生では63.7%(全道比1.3ポイント低い)。小学生・中学生の何れも昨年度より向上していますが、特に、小学生では全国比においても0.6ポイント上回っています。

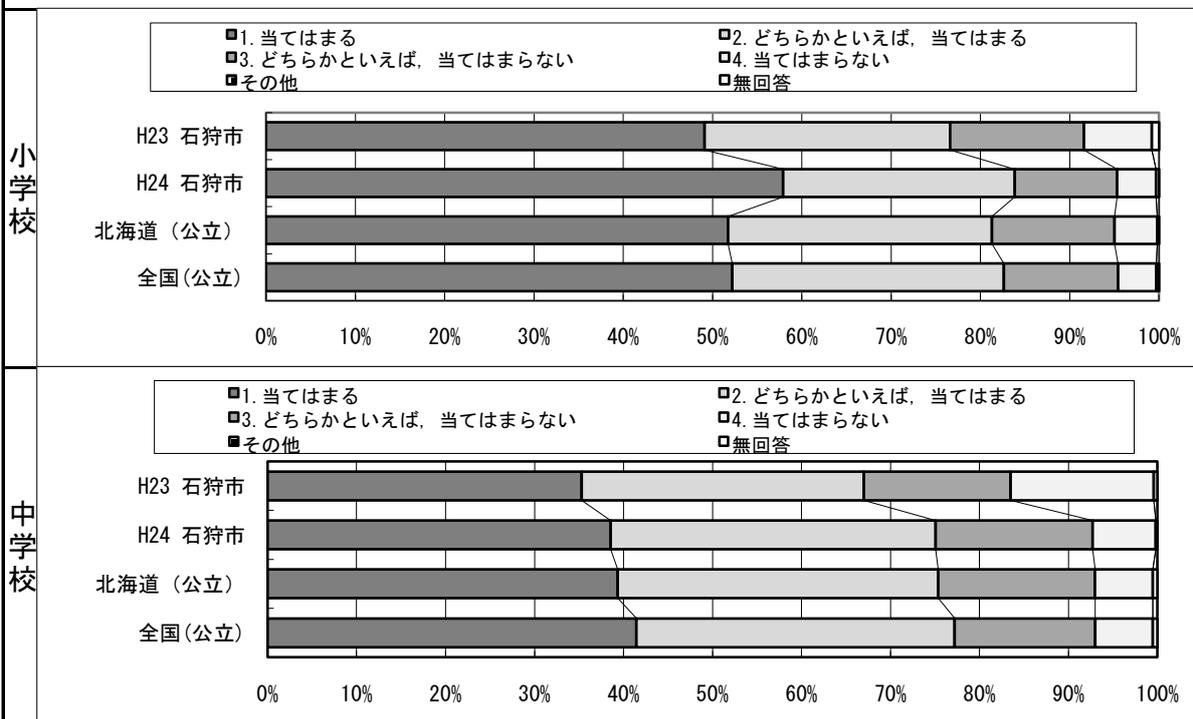
17. 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか



ノートの工夫…大きな成果

「問題の解き方や考えをノートに書いている」と回答した小学生は83.8%(全道比2.6ポイント高い)、中学生は75.0%(全道比0.3ポイント低い)。小・中共に前年度を上回り、特に、小学生では全国も上回っています。普段のノート指導の成果と考えます。

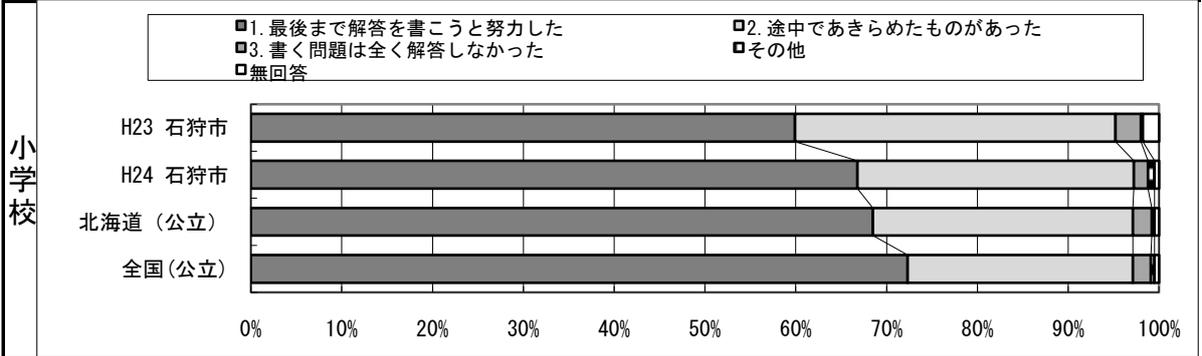
18. 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



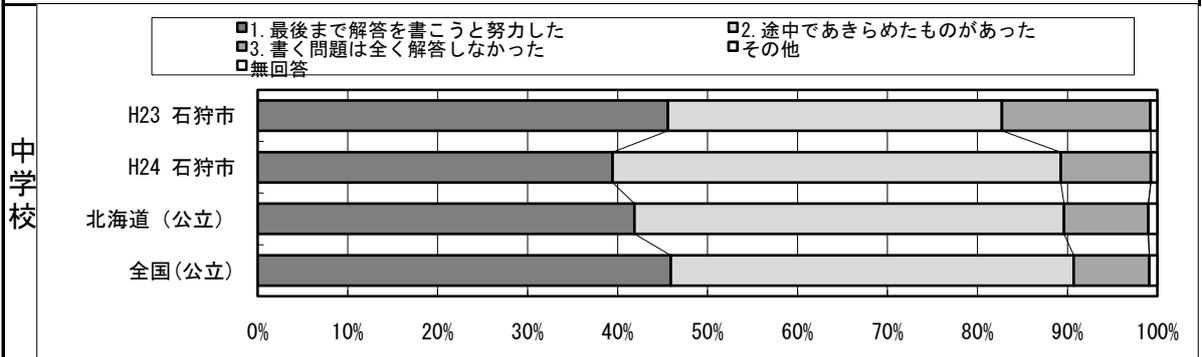
言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題…さらに改善を

言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題について、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答したのは、小学生では66.8%(全道比1.7ポイント低い)、中学生では39.5%(全道比2.4ポイント低い)。小学生は昨年度より向上が見られますが、中学生は後退しており、意欲の向上を図る必要があります。

19. 今回の算数の問題について、言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題がありました。どのように解答しましたか



今回の数学の問題について、解答を言葉や式を使って説明する問題がありました。最後まで解答を書こうと努力しましたか



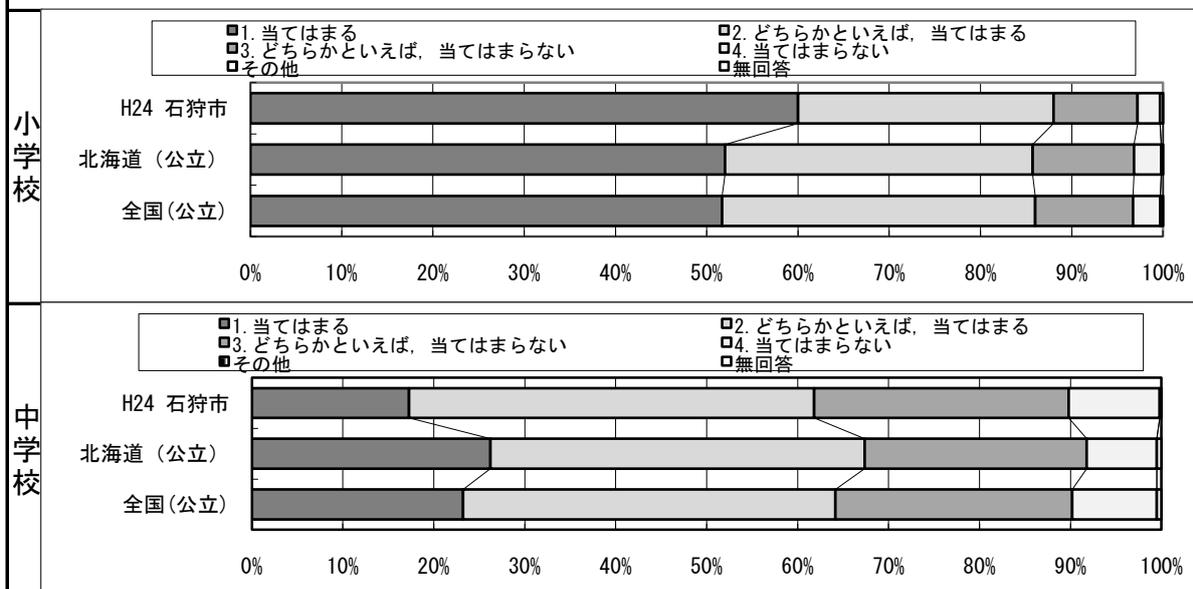
V 理科の学習について

「理科の授業が分かる」小学生…全国以上

理科の授業の内容が分かると回答したのは、小学生では88.0%(全道比2.3ポイント高い)、中学生では61.8%(全道比5.5ポイント低い)。

特に、小学生については、全国と比べても2.0ポイント高い傾向を示しています。

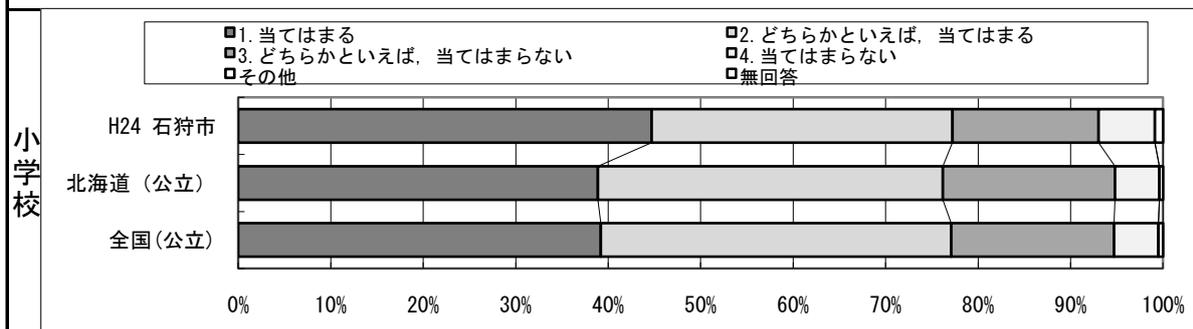
20. 理科の授業の内容はよく分かりますか



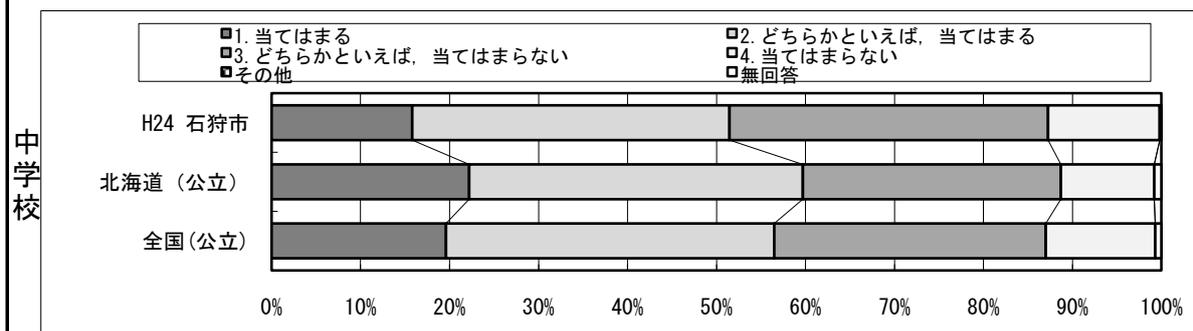
「観察や実験の結果からの科学的思考」…小学生で高い

観察や実験の結果から自然現象の法則を考えようとする姿勢について、小学生では77.2%(全道比1.0ポイント高い)、中学生では51.4%(全道比8.3ポイント低い)。特に、小学生は、全国と比べても0.1ポイント高い傾向を示しています。

21. 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか



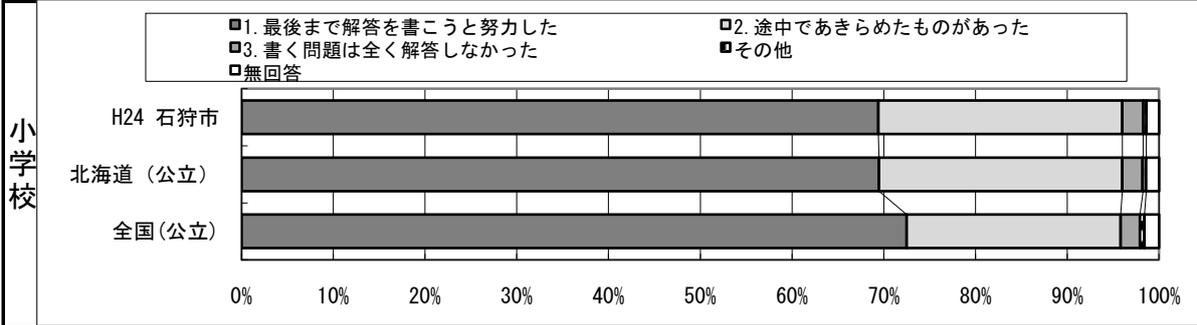
理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか



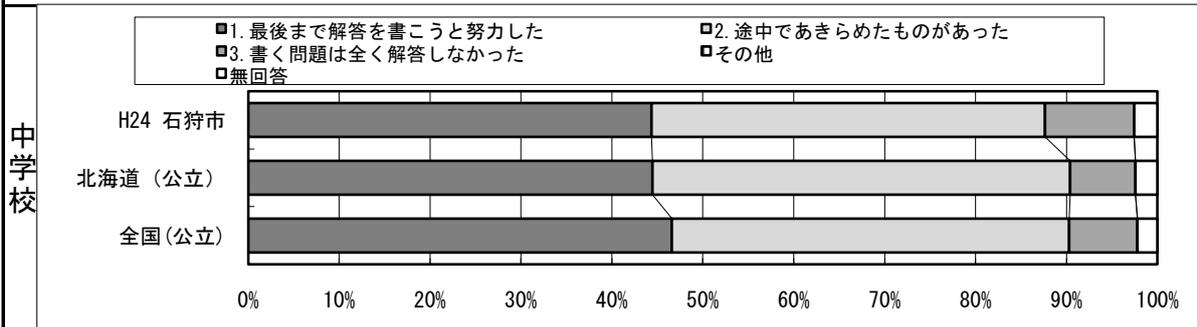
言葉や文章を使って、わけや求め方を書く問題…同様の傾向

言葉や文章を使って、わけや求め方を書く問題について、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答したのは、小学生では69.4%(全道と同じ)、中学生では44.45%(全道比0.1ポイント低い)。小学生・中学生の何れも、全道と同様の傾向を示しています。

22. 今回の理科の問題について、言葉や文章を使って、わけを書く問題がありました。どのように解答しましたか



今回の理科の問題について、解答を言葉や文章などを使って説明する問題がありました。最後まで解答を書こうと努力しましたか



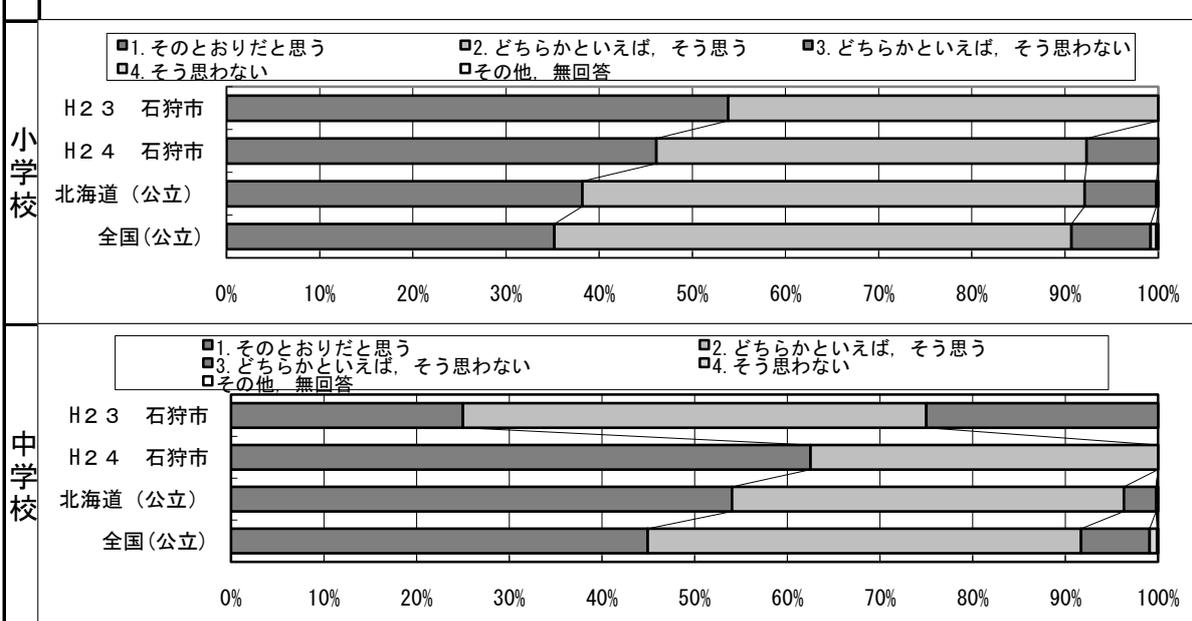
学習状況調査 「学校質問紙結果」より

I 学習態度

落ち着いた態度で授業に取り組む

授業中の私語が少なく、落ち着いていると思うと回答した学校の割合は小学校で46.2%(全道比8.0ポイント高い)、中学校で62.5%(全道比8.4ポイント高い)で全道より上回っています。

1. 第6学年の児童や第3学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

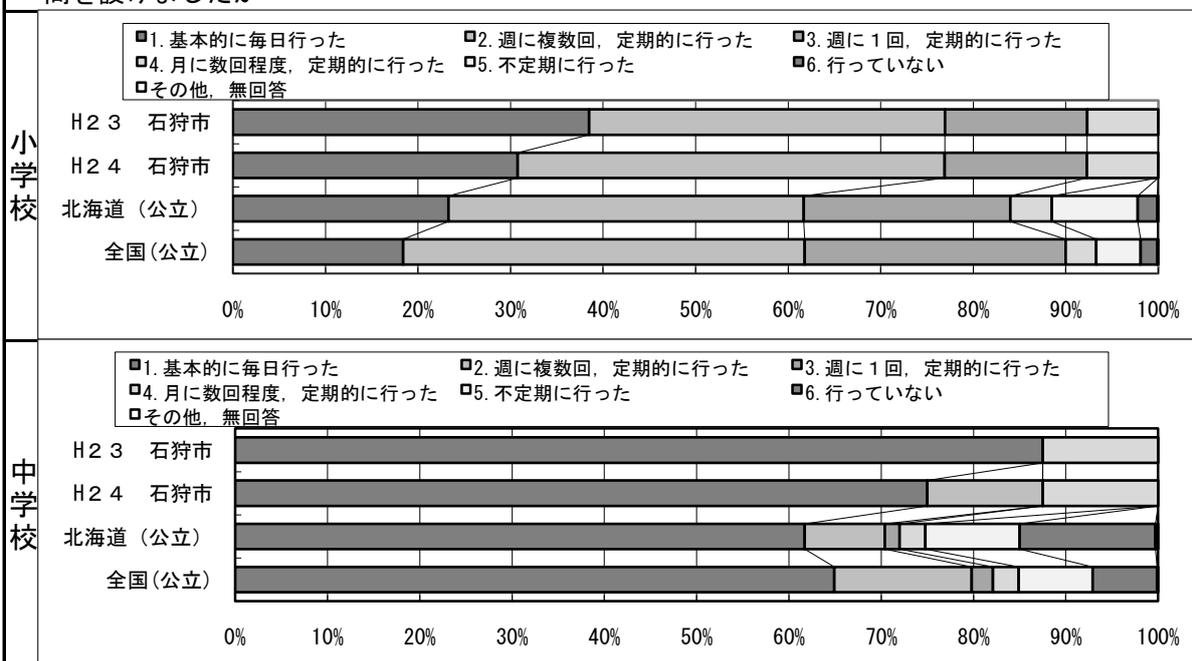


II 学力向上に向けた取組等

読書活動への取り組みが定着

「朝読書」を「基本的に毎日行った」のは小学校で30.8%(全道比7.5ポイント高い)、中学校で75.0%(全道比13.3ポイント高い)です。「毎日行った」はやや後退していますが、全体的には読書活動は定着しています。

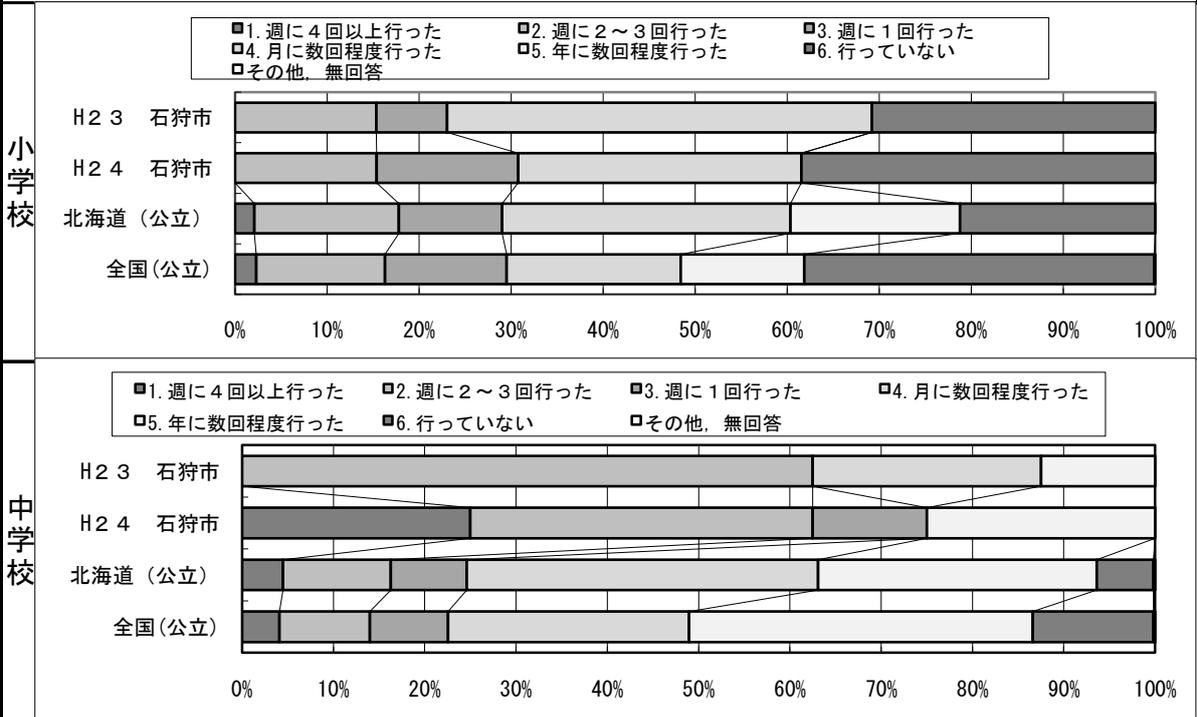
2. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか



補足的学習サポートに差

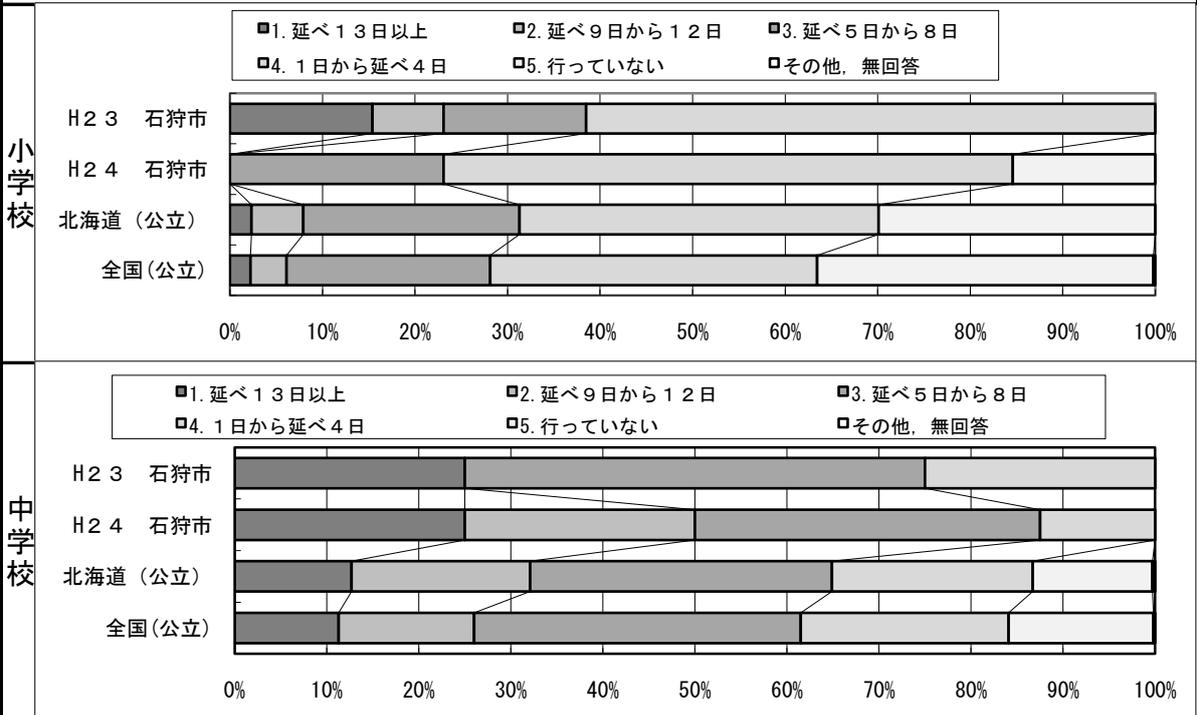
① 放課後を活用した補足的学習サポートを「週に1回」以上行ったのは、小学校で31.1%(全道比2.1ポイント高い)、中学校で75.0%(全道比50.4ポイント高い)です。中学校の積極的な取り組みが顕著です。

3. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか



② 長期休業日を活用した補足的学習サポートでは、「延べ5日~8日」以上実施したのは、小学校で23.1%(全道比8.2ポイント低い)、中学校で87.5%(全道22.6ポイント高い)です。全道と比べ小学校は低く、中学校は相当高い結果となっています。

4. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか

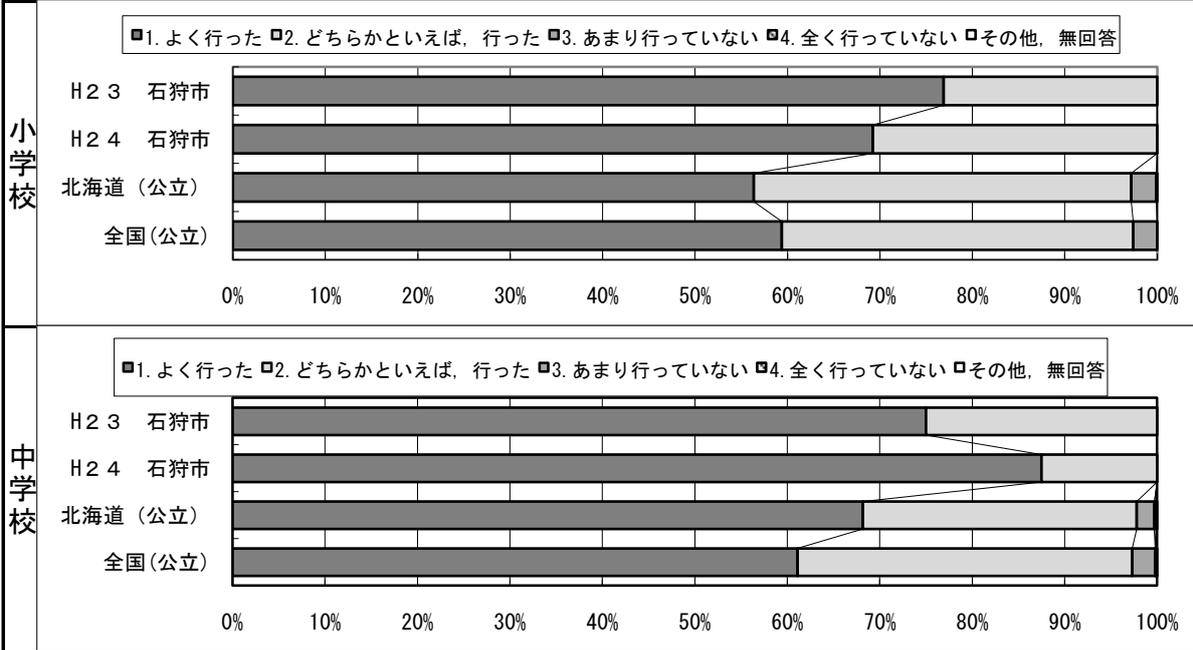


Ⅲ 指導方法・学習規律

授業充実への工夫・改善に努力

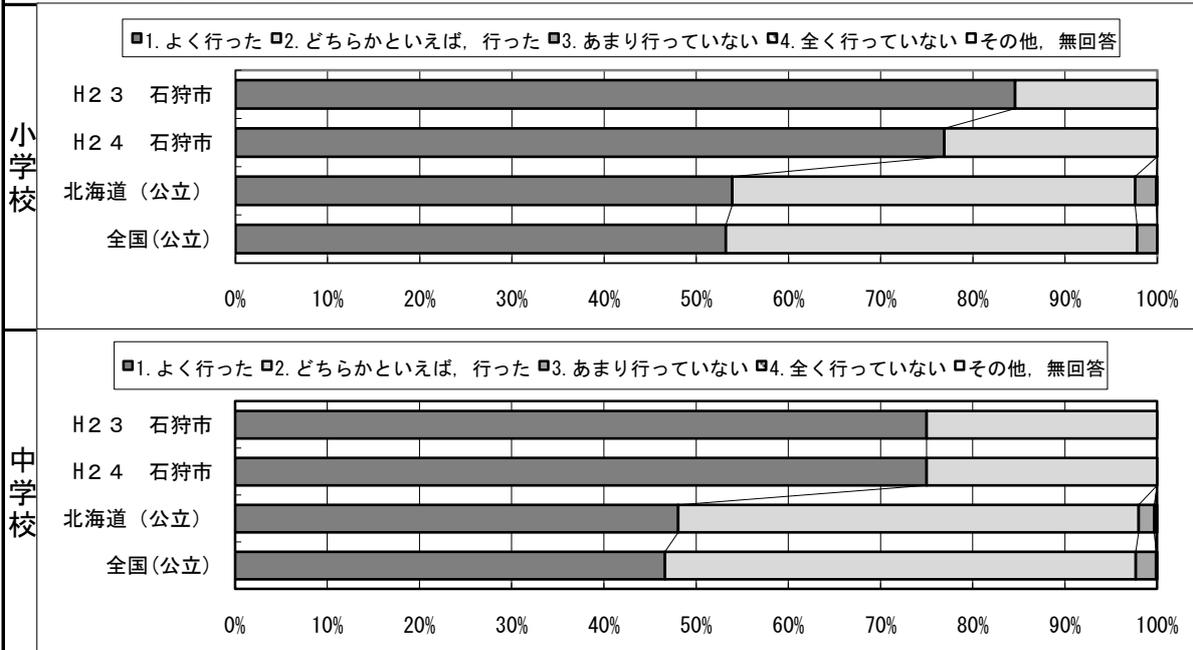
① 学習規律やノートの取り方等の改善に努め、「よく行った」のは小学校で69.2%(全道比12.9ポイント高い)、中学校で87.5%(全道比19.4ポイント高い)です。全道平均より高い結果を示しています。

5. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底しましたか



② 学習方法に関する指導を「よく行った」のは、小学校で76.9%(全道比23.0ポイント高い)、中学校で75.0%(全道比27.0ポイント高い)です。全道平均より高い結果を示しています。

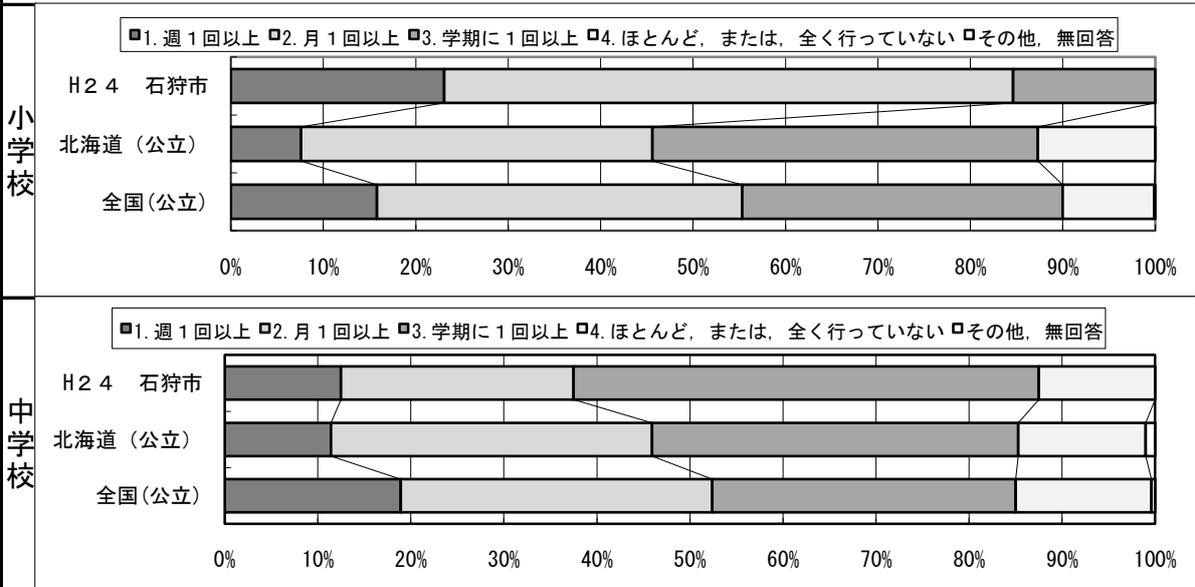
6. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度までに、学習方法(適切にノートをとるなど)に関する指導をしましたか



教育機器の活用に期待

理科で教員が教育機器の活用等の工夫を「週1回」以上行った割合は、小学校で23.1%(全道比15.5ポイント高い)、中学校で12.5%(全道比1.1ポイント高い)です。教育機器の積極的・効果的活用を期待します。

7. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度に、理科の授業において、教員がコンピュータ等を使った工夫をしましたか

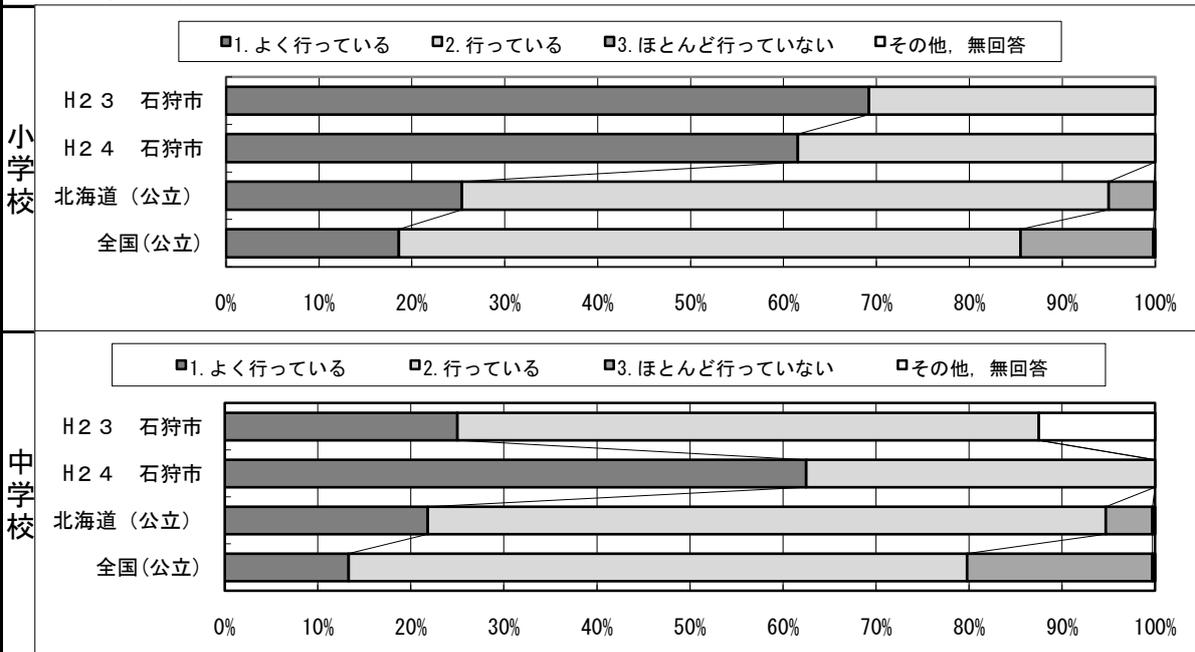


IV 全国学力・学習状況調査等の活用

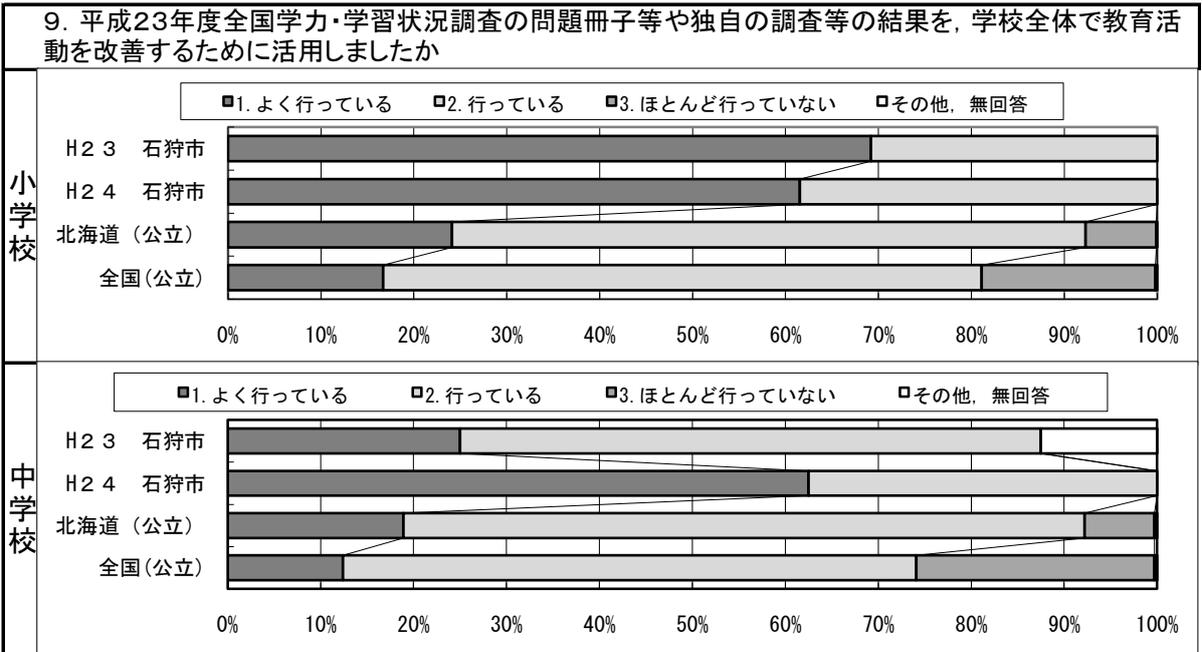
全国学力・学習状況調査の結果を活用し改善の努力

① 具体的な教育指導や学校全体での教育活動への活用を「よく行っている」は、小学校で61.5%(全道比36.1ポイント高い)、中学校で62.5%(全道比40.7ポイント高い)です。小学校・中学校ともに結果の活用への意識は高く、全道平均を上回っています。

8. 平成23年度全国学力・学習状況調査の問題冊子等や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行いましたか



② 各種調査の結果を教育活動改善への活用を、「よく行っている」のは小学校で61.5%(全道比37.4ポイント高い)、中学校で62.5%(全道比43.6ポイント高い)です。中学校は大きく改善され、小学校、中学校ともに結果を活用する意識が高まっています。

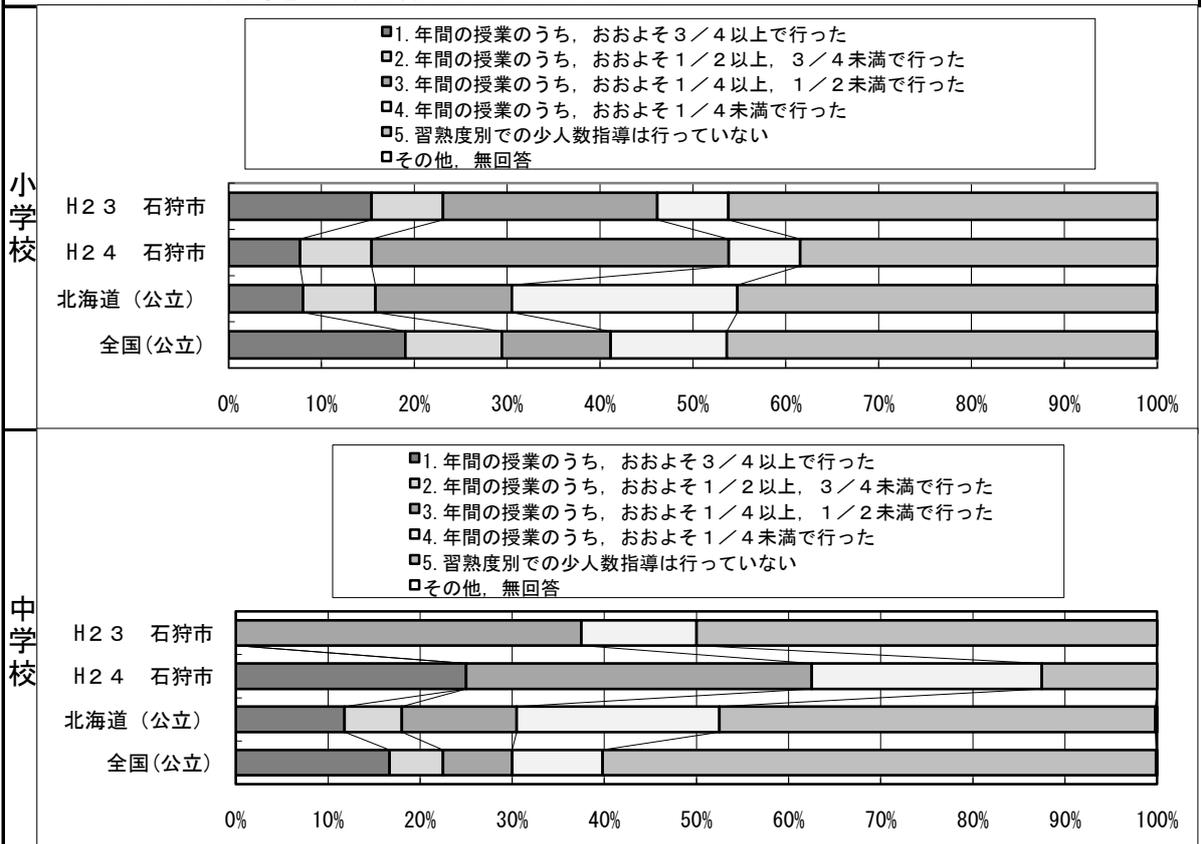


V 習熟度別少人数指導

児童生徒の習熟度に応じて対応を改善

児童生徒の習熟度に応じて柔軟に指導形態を変えた指導は、小学校で61.6%(全道比6.8ポイント高い)、中学校で87.5%(全道比35.0ポイント高い)です。小学校、中学校ともに全道より高く、改善されています。

10. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度に、算数・数学の授業において、習熟の遅いグループに少人数指導を行い、習得できるようにしましたか

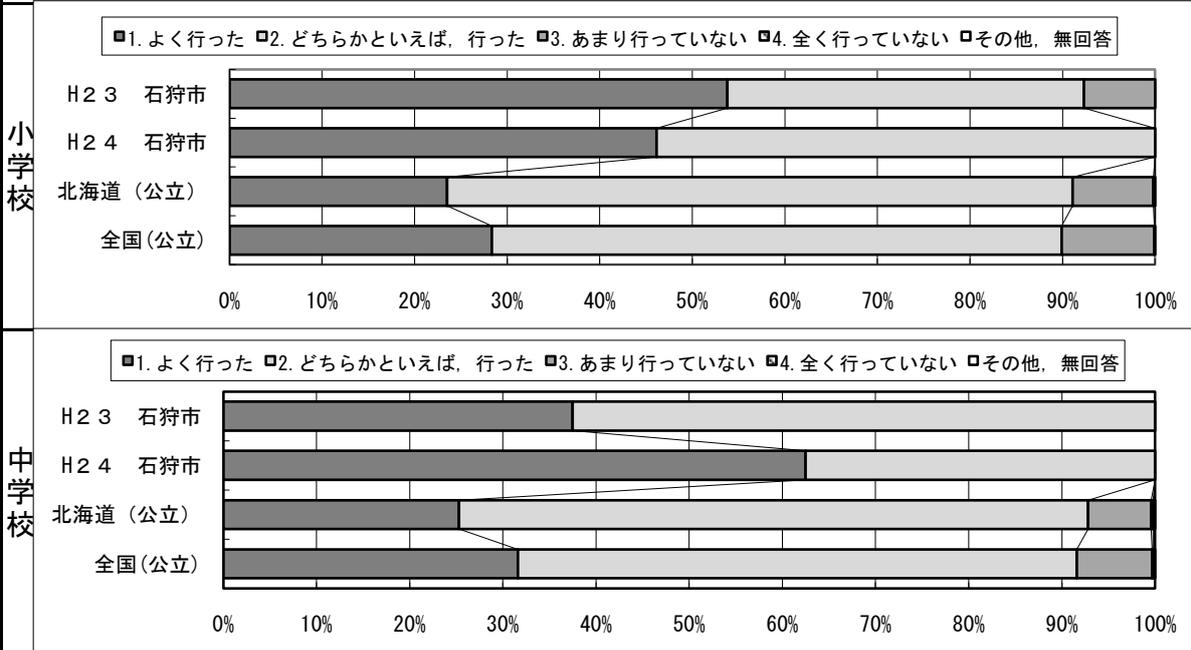


VI 教科の指導方法

教科の特質に注目した指導の改善

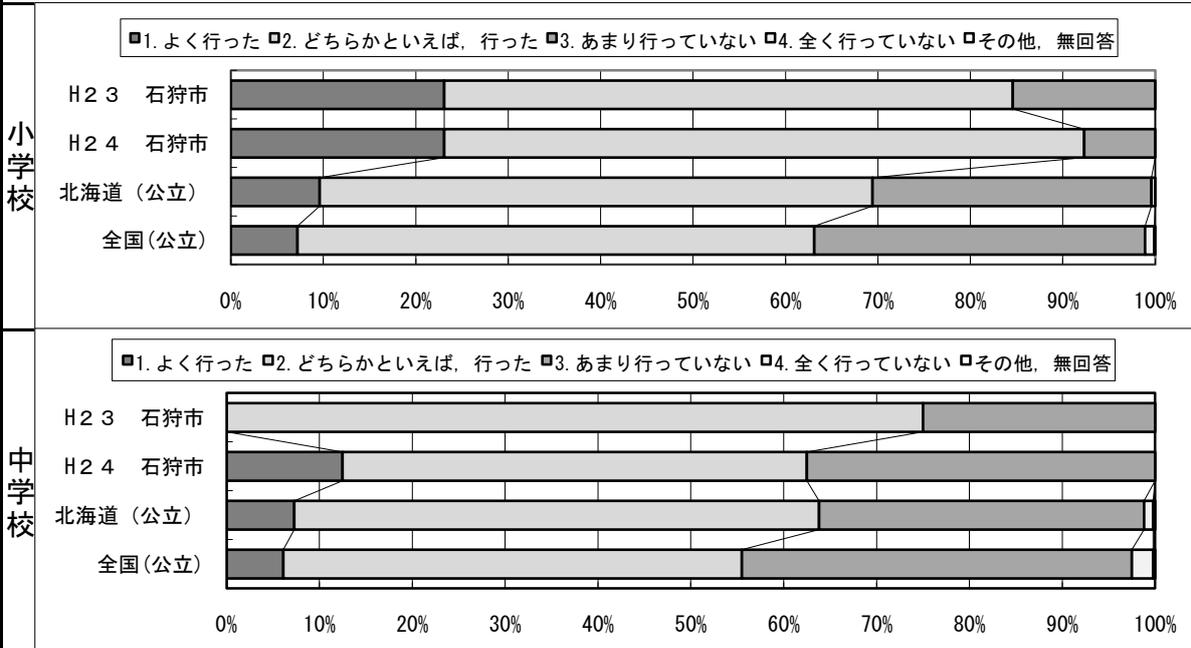
①国語科の特質を踏まえて「書く」指導の改善に努めています。小学校で46.2%(全道比22.7ポイント高い)、中学校で62.5%(全道比37.2ポイント高い)です。小学校、中学校ともに「書くこと」の意識は高くなっています。

11. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか

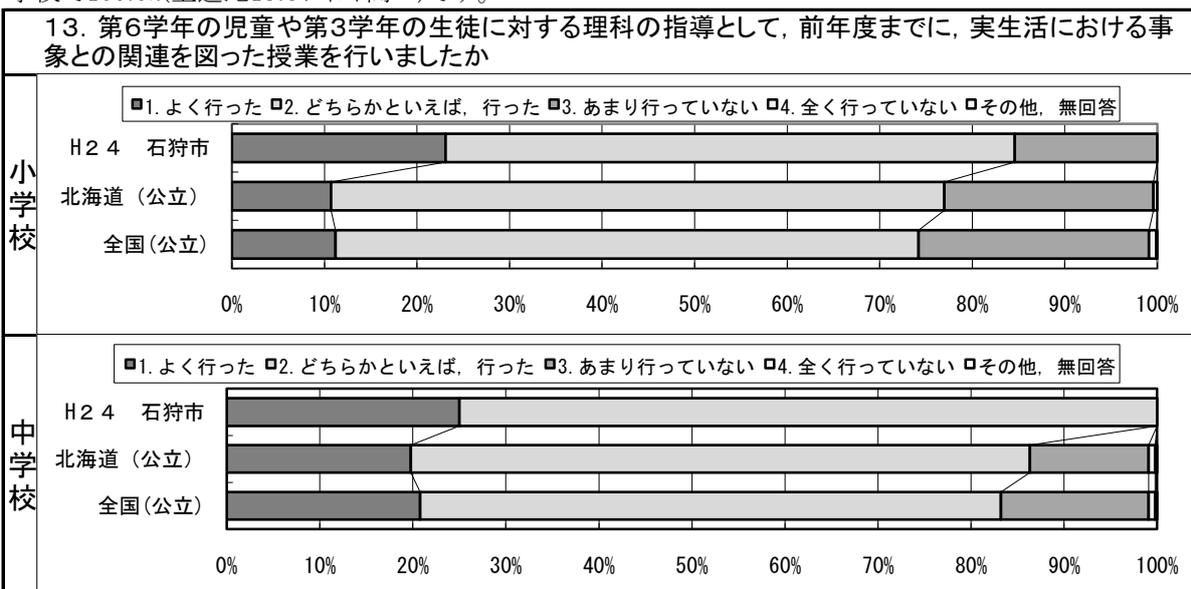


② 基礎基本事項の応用・発展に関連した内容で、小学校で92.3%(全道比22.9ポイント高い)、中学校で62.5%(全道比1.3ポイント低い)です。全道平均と比べ、小学校は高く、中学校はほぼ同様です。

12. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



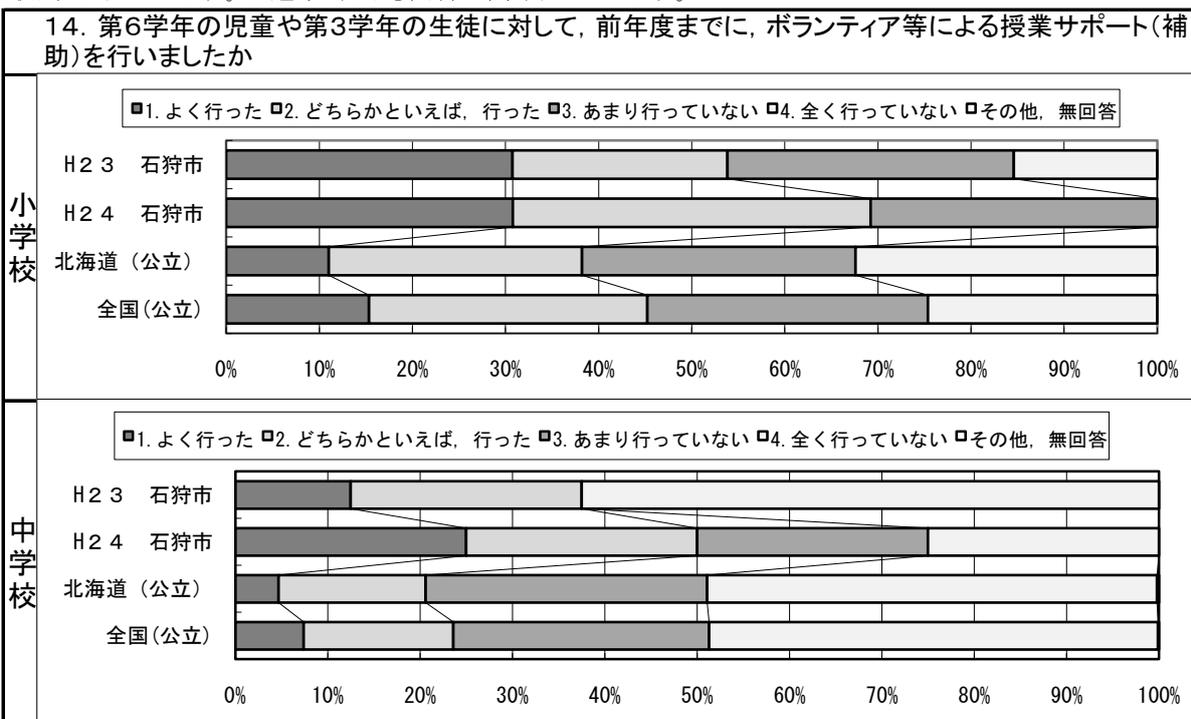
③ 実生活における事象との関連を図った授業を行った割合は、小学校で84.6%(全道比7.6ポイント高い)、中学校で100.0%(全道比13.6ポイント高い)です。



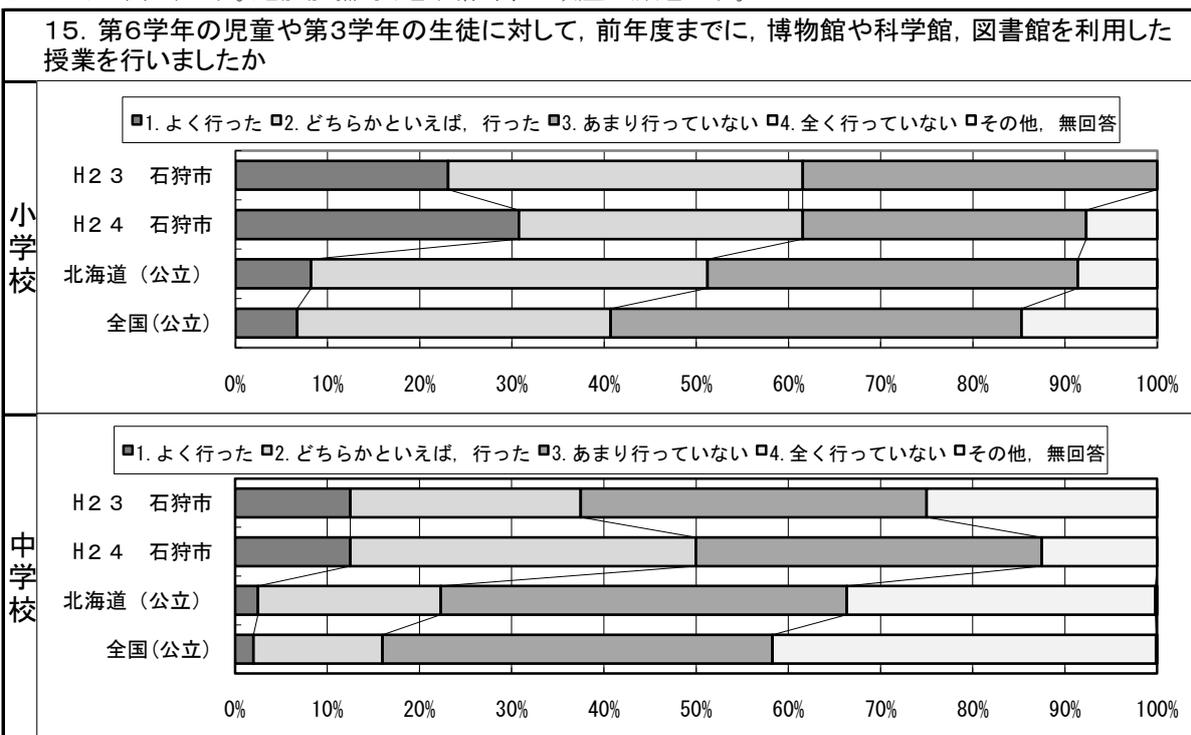
Ⅶ 地域人材の活用・施設等の活用

地域と連携して取り組みを推進

① 地域人材や施設の活用について「よく行った」「どちらかといえば、行った」は、小学校で69.3(全道比31.1ポイント高い)、中学校で50.0%(全道比29.4ポイント高い)です。条件の厳しいなかでも地域の協力を得てよく取り組まれています。全道平均よりも割合が高くなっています。



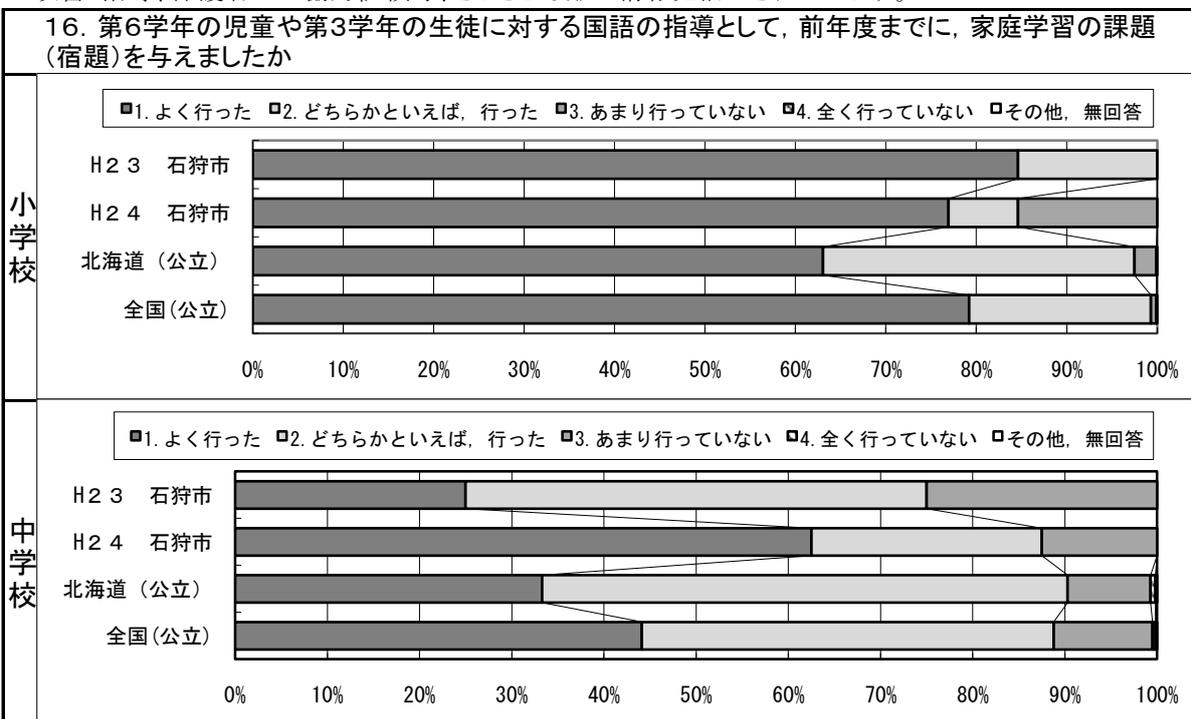
② 施設の活用に対する肯定的な回答は、小学校で61.6%(全道比10.4ポイント高い)、中学校で50.0%(全道比27.6ポイント高い)です。施設設備・交通事情等、地域差が課題です。



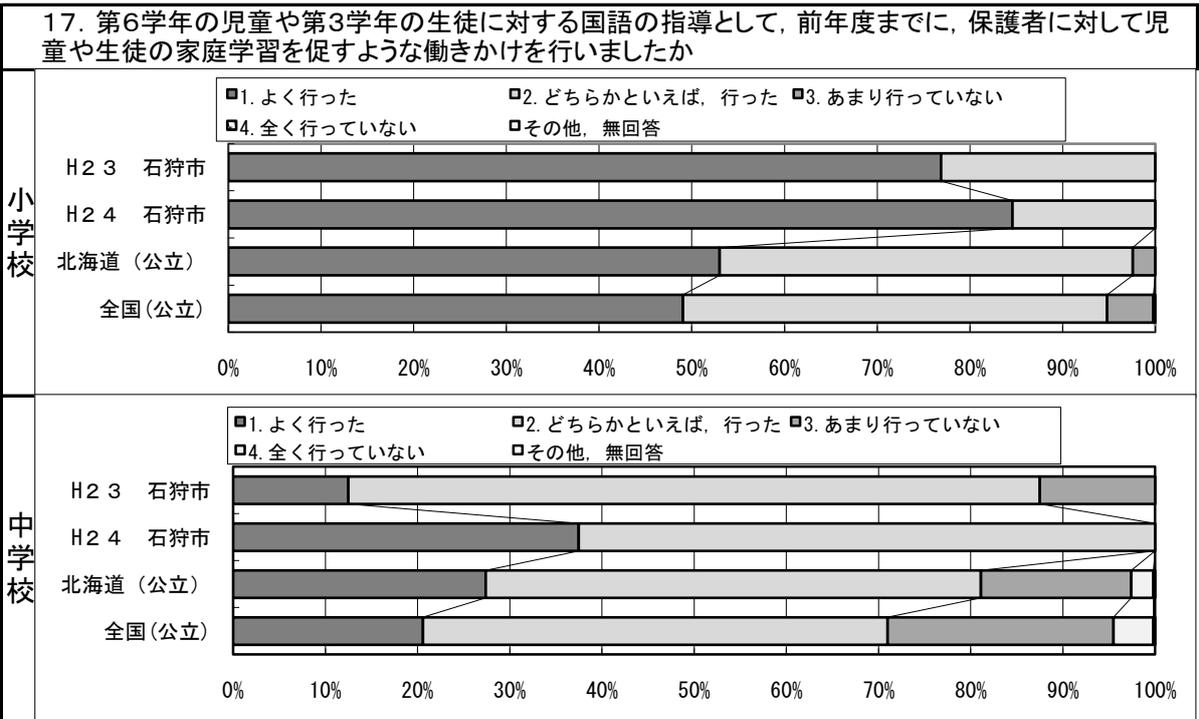
Ⅷ 家庭学習・家庭との連携

家庭学習や家庭との連携が意識され、啓発活動を推進

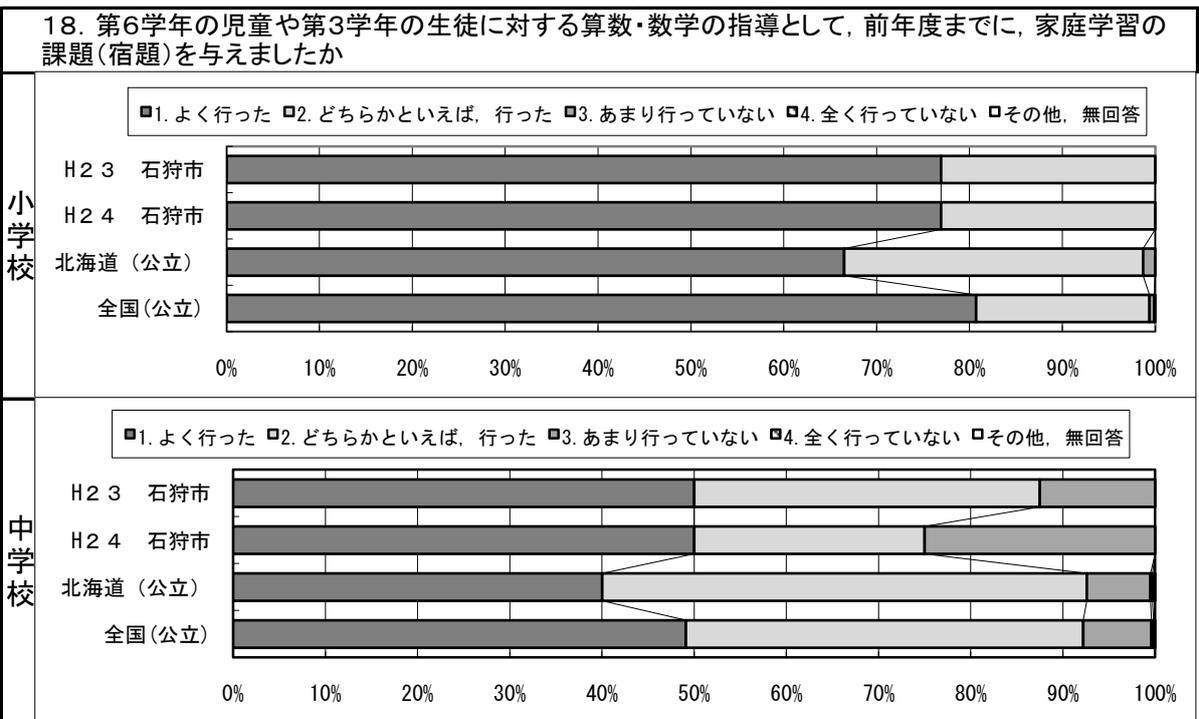
① 「よく行った」は、小学校で76.9%(全道比13.9ポイント高い)、中学校で62.5%(全道比29.2ポイント高い)です。既習事項の定着のための家庭学習と家庭の協力の大切さが改めて意識され、家庭学習の与え方や学習法の改善・指導、保護者への協力依頼等、さまざまな形で情報発信がされています。



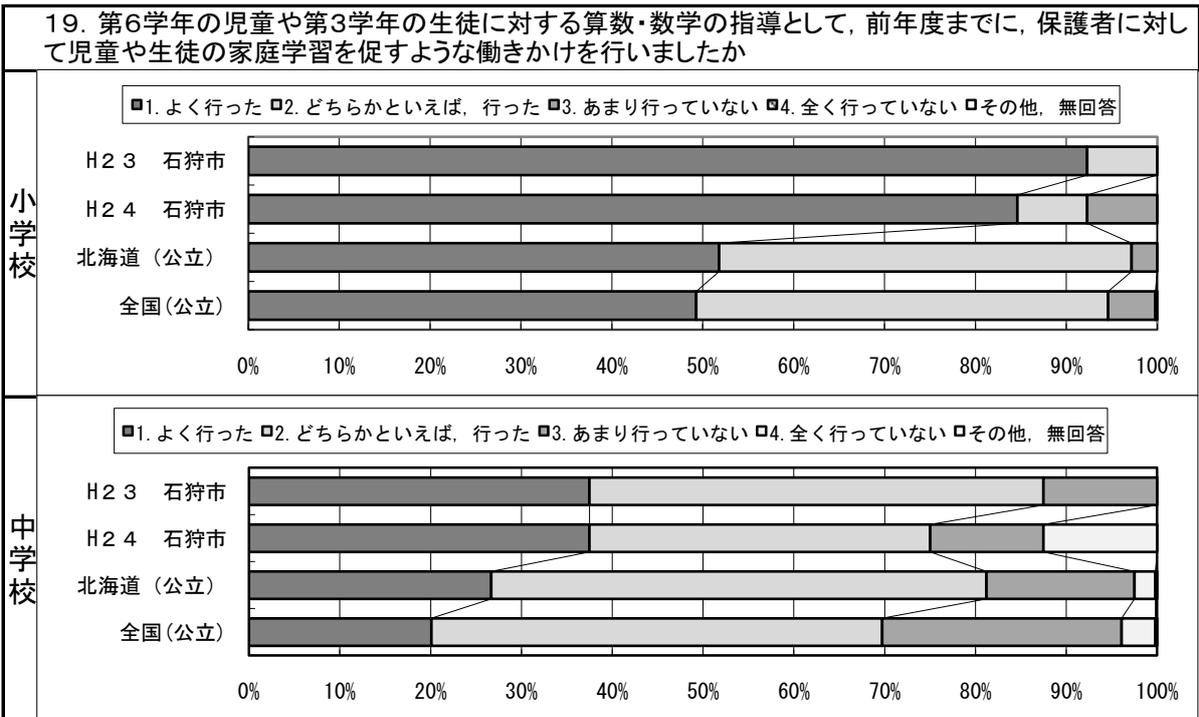
② 国語の家庭学習を促すはらきかけを「よく行った」のは、小学校で84.6%(全道比31.6ポイント高い)、中学校で37.5%(全道比10.1ポイント高い)で、小学校、中学校ともに全道平均より高い結果を示しています。



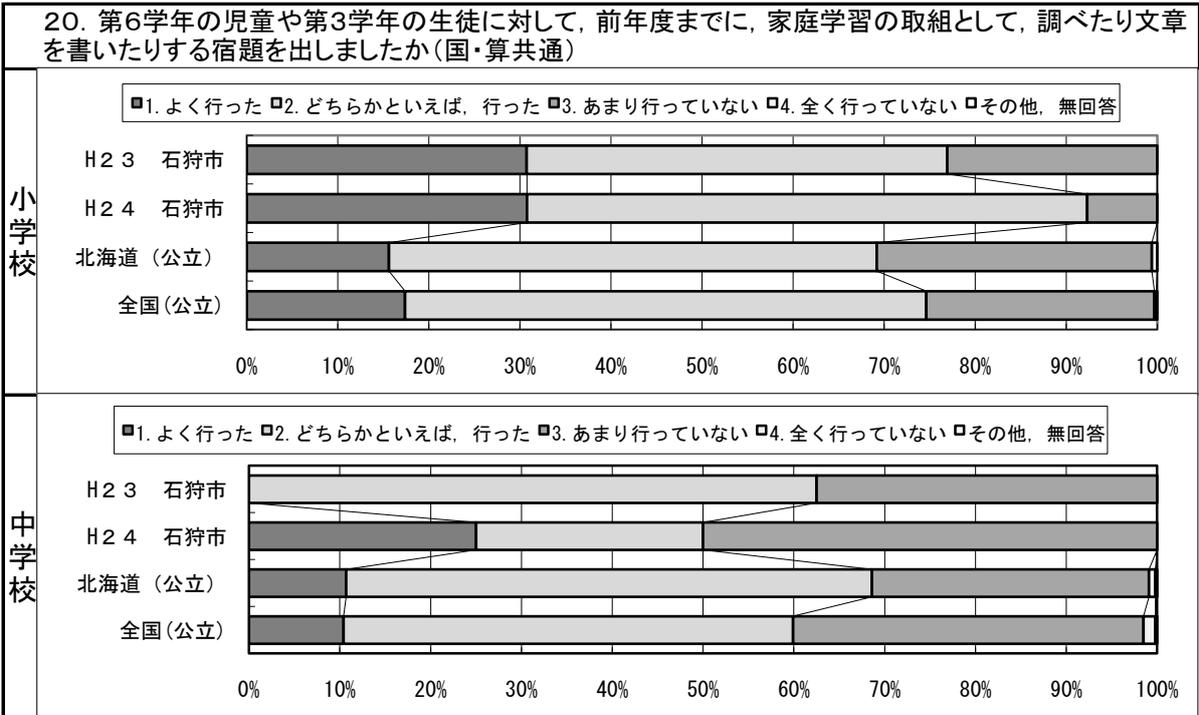
③ 「家庭学習の課題(宿題)を与えましたか」に対し、「よく行った」は小学校で76.9%(全道比10.4ポイント高い)、中学校で50.0%(全道比10.0ポイント高い)です。前年度との大きな差はありません。



④ 算数・数学の指導としての家庭学習の働きかけを、「よく行った」は小学校で84.6%(全道比32.8ポイント高い)、中学校で37.5%(全道比10.8ポイント高い)です。

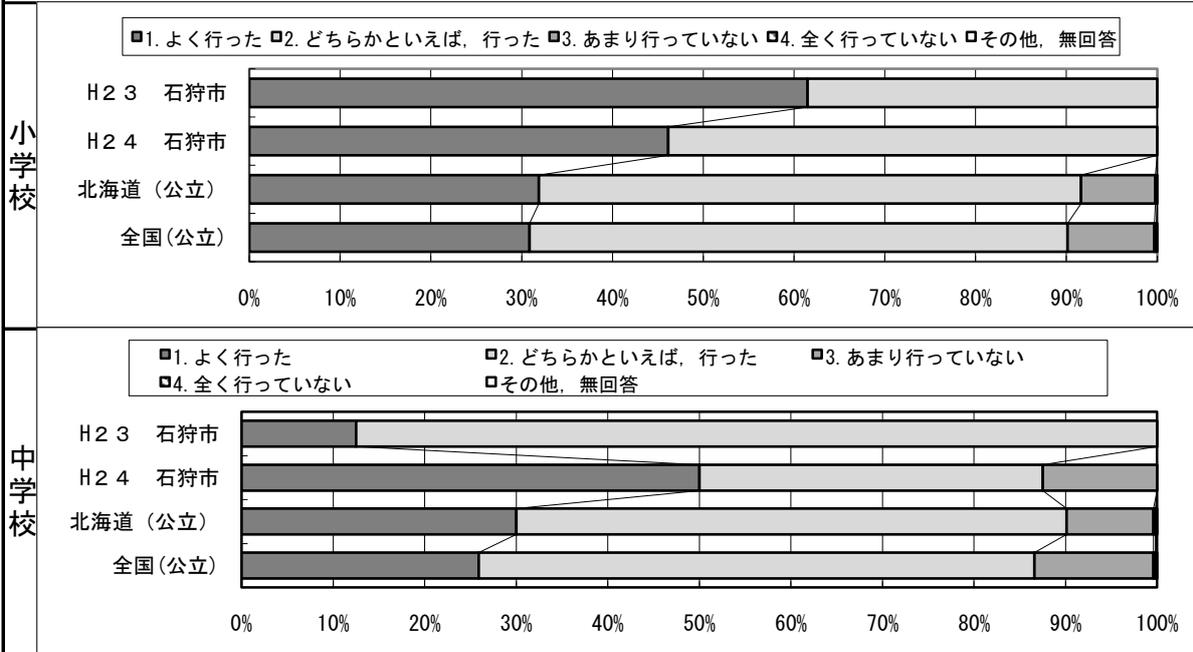


⑤ 調べたり文章を書いたりする宿題を、「よく行った」は小学校で30.8%(全道比15.2ポイント高い)、中学校で25.0%(全道比10.7ポイント高い)です。全体的傾向としてはまだ改善の余地があります。



⑥ 家庭での学習方法の指導を、「よく行った」は小学校で46.2%(全道比14.3ポイント高い)、中学校で50.0%(全道比20.0ポイント高い)です。小学校、中学校ともに全道平均より高い結果になっています。

21. 第6学年の児童や第3学年の生徒に対して、前年度までに、家庭での学習方法等在具体例を挙げながら教えましたか(国・算共通)



<報告事項 1 >

平成24年度 石狩市教職員研修「ウィンターセミナー」について

1. 目的

市の教育目標の達成及び現代的教育課題を解決するため、専門的知識や実践的指導力など、教職員に求められる資質の向上を図る。

2. 主催

石狩市教育委員会

3. 日時、場所

平成25年1月11日（金） 13:30～16:00

花川北コミュニティセンター

4. 対象

市内小中学校教職経験10年以下の教諭及び期限付き教諭

* 初任者指導担当教諭、教務主任等、若手指導の立場にある教職員にも案内

5. 内容

(1) 形式 講義及び質疑

(2) 講座名「崩壊しない学級づくりと日常授業の改善」

(3) 講師 野中 信行 氏

- ・ 学校力向上に関する総合実践事業アドバイザー
- ・ 全国各地で、教師向けの講座やセミナーを行っている。

研究テーマ「学級組織論」

著書「新卒時代を生き抜く学級づくり3原則」(明治図書出版)

「野中信行が答える若手教師のよくある悩み24ー初任者指導教諭が教える、大学や現場では教わらない実践のノウハウと考え方」(黎明書房)
「野中信行のブログ教師塾『現場』を生き抜くということ」(学事出版)

「必ずクラスがまとまる教師の成功術！」(学陽書房)

「必ずクラスを立て直す教師の回復術！」(学陽書房)

6. その他

講師の招聘は、学校力向上に関する総合実践事業実践指定校である花川小学校

* 学校力総合実践事業指定校、近隣校(双葉小・紅南小・緑苑台小)は全員対象

<報告事項 2 >

厚田区の学校のあり方について

H24.11.27 第8回厚田区地域協議会資料

資料 No.4

厚田区学校検討会について（報告）

1. 趣旨

この検討会は、厚田区の学校について、過去の経緯を含め、現状を認識し、将来に向けて厚田区全体で考える必要があることから、より良い学校を厚田区に残すために、地域の意見交換の場として設定する。

2. 参加者 厚田区地域協議会代表（2名）、保護者代表（10名）、各校教頭（5名）

3. これまでの経緯

【第1回 H24.5.29 望来コミセン】

- ・現状の認識と各委員の思いなどについて、話し合いを行った。
(資料) 厚田区の人口推移と今後の見込み、厚田区の児童生徒・学級数の推移と今後の見込み、複式学級について、小学校及び中学校の県費負担教職員定数の配置基準について、厚田区小中学校施設の状況 など

【第2回 H24.7.19 望来小学校】

- ・小規模校のメリット、デメリットについて、話し合いを行った。
(資料) 厚田区近郊の学校（八幡小、石狩小中、浜益小中）の児童生徒数等推移、海拔・避難所の情報

【第3回 H24.9.5 望来コミセン】

- ・統廃合に賛成、反対という立場に分けず、地域の視点、教育の視点の双方から、地域の当事者としての話し合いを行った。

【第4回 H24.10.24 望来コミセン】

- ・京都市の事例を参考に、統廃合する場合、しない場合に、どのようなかたちが望ましいか、地域の知恵を出し合い、将来に渡り厚田区のすべての子ども達のために、という視点で、話し合いを行った。
(資料 パンフレット) すべては子どもたちのために（編集/京都市教育委員会ほか）

【第5回 H24.11.21 望来コミセン】

- ・どのような地域連携教育が可能か、どのような小中一貫教育が可能か、また、地域がどう支援していけるのかについて、話し合いを行った。
(資料 パンフレット) 地域支援団体リスト（編集/厚田区地域協議会 地域教育分科会）

厚田区学校検討会 座長 佐藤 勝彦

<報告事項3>

石教学第4626号

平成24年12月12日

各小中学校長 様

石狩市教育委員会

教育長 鎌 田 英 暢

教職員給与費の適正執行等に関する調査結果について（通知）

このことについて、平成24年11月30日付け石教学第4595号において北海道における調査結果をお知らせしているところですが、各学校における調査結果について別記のとおりとなった旨北海道教育委員会教育長より通知がありましたので、通知します。

調査の結果、本市においても、教職員の一部において給与費の執行に適正を欠く事態が明らかとなりました。特に、児童生徒の教育に直接携わり、より高い倫理観、使命感を求められる立場にある教職員の勤務について、サービスの根本である職務専念義務が遵守されていなかったことは、誠に遺憾であり、厳しく受け止めているところです。

このような事態が生じた背景としては、不適切な勤務実態にあった教職員の法令遵守の意識が欠如していたことはもとより、管理職の勤務時間管理が適切ではなかったこと、また、市教委においても各学校に対する指導や実態把握が十分でなかったことなどがあつたと考えているところです。

つきましては、平成24年11月30日付け石教学第4594号で通知しているとおり、服務規律の厳正な保持について、当該通知に留意のうえ、所属職員の服務規律の確保及び保持について万全を期すようお願いします。

また、主任手当の支給額算定に誤りのあつた学校に対しては、今後、主任等の勤務状況を的確に把握し、適正な支給について万全を期すようお願いします。

更に、勤務時間の遵守に関する調査の中で、不適切であつたことを裏付ける本人の証言は得られなかったが関係書類の記載内容及び聞き取りの内容から明らかに不自然であると判断されるものがあつた学校においても、今後、管理職が職員の出勤退勤を確認するよう努めるなど、所属職員の勤務時間管理の適正化を図る具体的な取組を行うようお願いします。

教職第1586号
平成24年12月6日

関係市町村教育委員会教育長 様

北海道教育委員会教育長 高橋 教一

教職員給与費の適正執行等に関する調査の結果について(通知)

平成23年11月16日付け教給第1272号で通知した標記調査に係る調査報告については、平成24年11月26日付け教職第1534号で通知したところですが、各学校ごとの調査結果については別記のとおりとなりましたので、貴所管の学校に調査結果を通知願います。

調査の結果、平成22年度に実施された会計検査院による国庫負担金に係る会計実地検査の結果同様、教職員の一部において給与費の執行に適正を欠く事態が明らかとなりました。特に、児童生徒の教育に直接携わり、より高い倫理観、使命感を求められる立場にある教職員の勤務について、サービスの根本である職務専念義務が遵守されていなかったことは、誠に遺憾であり、厳しく受け止めているところです。

このような事態が生じた背景としては、不適切な勤務実態にあった教職員の法令遵守の意識が欠如していたことはもとより、管理職の勤務時間管理が適切でなかったこと、また、市町村教育委員会や道教委においても、各学校に対する指導や実態把握が十分でなかったことなどがあったと考えているところです。

ついては、このような適切を欠く勤務実態があったことについて、道民や、当該校の保護者・児童生徒に対して、説明責任を果たす必要があると考えており、教職員の職務専念義務が遵守されていなかった学校においては、当該校の保護者や児童生徒に対し、職員団体活動、外勤・出張及び職専免の取扱い、校外研修及び長期休業期間等における勤務時間遵守に関して適切を欠く勤務実態があったことや、今後の勤務の適正化に向けた取組などについて十分な説明を行うなど、学校と児童生徒、保護者等との信頼関係の確保を図るようお願いいたします。

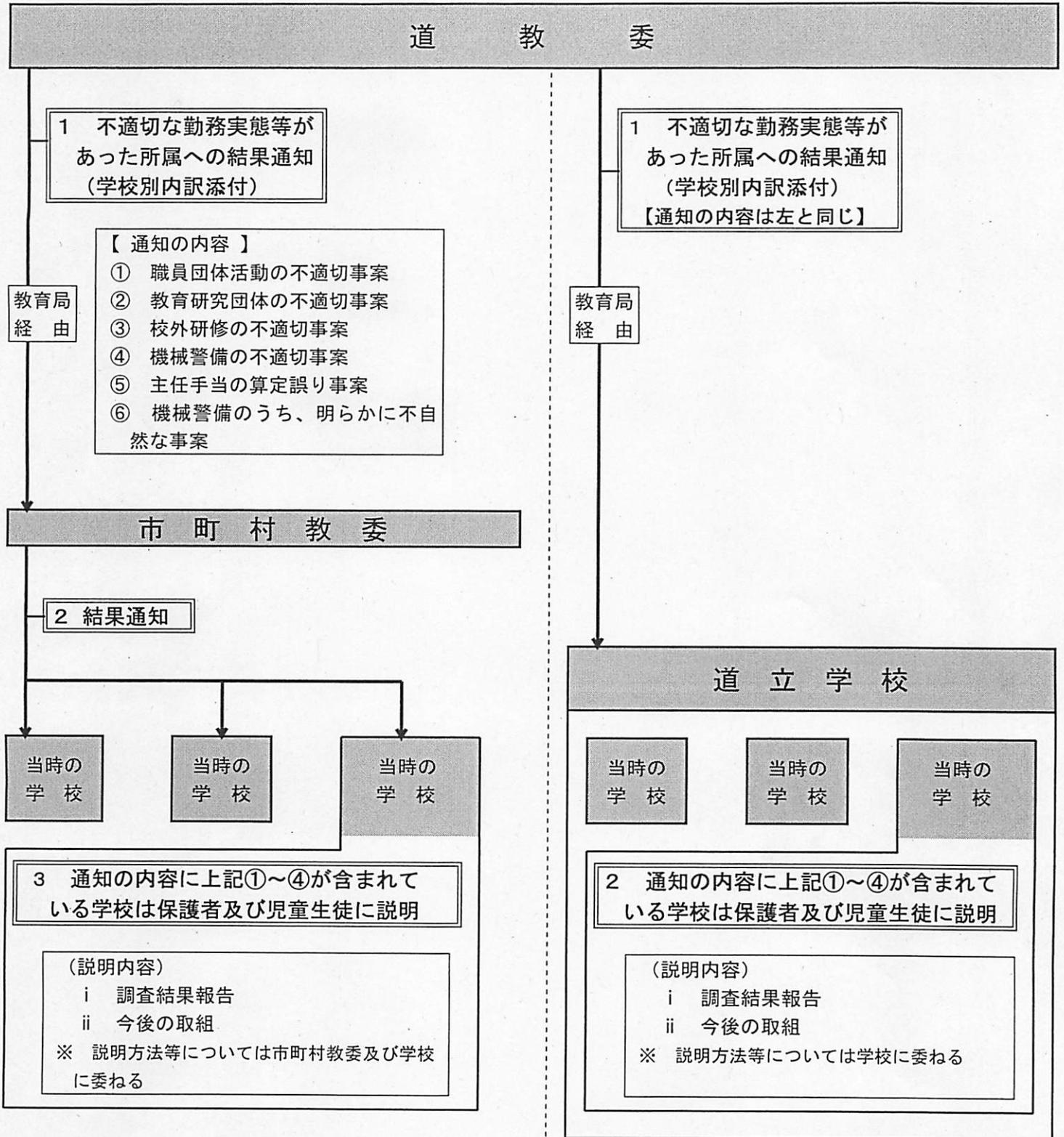
また、主任手当の支給額算定に誤りのあった学校に対しては、今後、主任等の勤務状況を的確に把握し、適正な支給について万全を期すよう指導願います。

更に、勤務時間の遵守に関する調査の中で、不適切であったことを裏付ける本人の証言は得られなかったが関係書類の記載内容及び聞き取りの内容から明らかに不自然であると判断されるものがあつた学校においても、今後、管理職が職員の出勤退勤を確認するよう努めるなど、所属職員の勤務時間管理の適正化を図る具体的な取組を行うよう改めて指導願います。

総務政策局教職員課人事法規グループ
教育職員局参事涉外グループ
教育職員局給与課給与支給グループ
教育職員局給与課給与費管理グループ
教育職員局教職員事務センター市町村学校手当認定第一グループ
教育職員局教職員事務センター市町村学校手当認定第二グループ



教職員給与費の適正執行等に関する調査の結果について



※ 通知の内容①～⑥に該当する職員に対しては、現職者は現所属を通して、退職者は本人あて直接、別途通知する。

<報告事項4>

星置養護学校の高等部移設等について

1. 移設について

(1) 経緯

星置養護学校（本校）の狭隘化解消の取組

- ① H24. 6. 19 : 星置養護学校狭隘化解消に関わる保護者説明会
 - ・星置養護学校長名で保護者対象
 - ・説明は、北海道教育庁学校教育局特別支援教育課
- ② H24. 7. 18 : 石狩市手をつなぐ育成会が、紅葉山校舎に通う保護者に対してアンケートを実施

(2) スケジュール

- ① H24. 12～ : 稲西高校改修の実施設計
- ② H25. 3. 末 : 北海道立稲西高等学校閉校（昭和57年度開校）
- ③ H25. 4～ : 閉校になる稲西高校内部改修工事（耐震工事済み）
- ④ H26. 4～ : 閉校になる稲西高校跡に、高等部移設

2. 紅葉山校舎の高等部設置について

(1) 経緯

小学部から高等部までの一貫した教育支援体制に配慮した特別支援学校の設置について、関係団体とともに道教委に要望

- ① H24. 8. 7 : 石狩市手をつなぐ育成会と教育委員会事務局の打合せ
- ② H24. 12 : 平成24年度要望等について検討（現在、未提出）
 - ・紅葉山校舎在籍の保護者の意見として、高等部設置を望む声もあるが、現在、紅葉山校舎在籍の保護者と石狩市手をつなぐ育成会が今後の要望等について協議を重ねていることから、紅葉山校舎の高等部設置についての要望は、今後の状況を見極めながら検討